

長野県住生活基本計画（R3～R12）の見直しについて

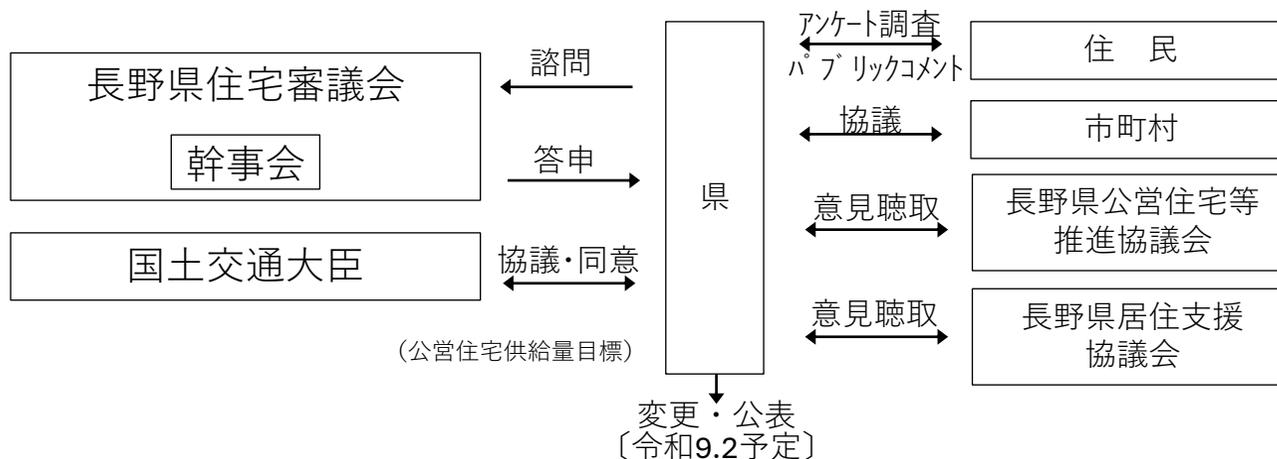
1 趣旨

現行の**長野県住生活基本計画**（計画期間：令和3年度から令和12年度）について、計画期間の前期5年が経過することから、**住生活基本計画（全国計画）の見直し予定（令和8年3月閣議決定予定）**及び社会情勢の変更に対するため、見直しを行う。

2 経過

	住生活基本計画 （全国計画）	長野県 住生活基本計画	計画期間
当初	平成18年9月	平成19年3月	平成18～27年度
現計画	令和3年3月	令和4年2月	令和3～12年度
次計画	令和8年3月予定	令和9年2月予定	令和8～17年度

3 策定体制



4 令和7年度～令和8年度 住生活基本計画改定スケジュール（案）

年度	令和7		令和8		
月	1 - 3	4 - 6	7 - 9	10 - 12	1 - 3
住宅審議会	第3回（1月） ・ アンケート結果報告 ・ 統計分析・意見交換	第1回（5月） ・ 諮問 ・ 方向性整理（骨子案）	第2回（8月） ・ 計画素案の検討	第3回（10月） ・ 計画の最終検討	第4回（1月） ・ 答申
	幹事会				
住生活基本計画策定	意見募集				
	調査等	県民アンケート調査 （1月）			

5 住まいに関する県民インターネットアンケート調査報告（令和8年1月5日～19日）

(1) 調査の目的

この調査は、令和3年度を初年度とする長野県住生活基本計画の見直し等にあたり、県民の住宅及び住環境に関する現状、意識、ニーズ等を把握し、基礎資料とする目的で実施。

(2) 調査の項目

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| ①回答者の属性 | ②住宅・居住環境に関する意識・意向について |
| ③住宅の環境対策について | ④住宅の地震対策について |
| ⑤高齢社会における住宅対策について | ⑥空き家対策について |
| ⑦公営住宅のあり方について | ⑧賃貸住宅に対するニーズ |
| ⑨景観について | ⑩地域コミュニティについて |
| ⑪これからの信州の住まい方について | ⑫その他 |

(3) 調査の設計

この調査は、次のとおり設計。

- | | |
|---------|---------------------------|
| ①調査対象 | 長野県内に住む満18歳以上の男女個人 |
| ②調査対象者数 | 1,000人 |
| ③抽出方法 | WEBモニター（10,000人以上）から抽出 |
| ④調査方法 | WEB調査 |
| ⑤調査期間 | 令和8年（2026年）1月5日（月）～19日（月） |

(4) 割付

年齢	東信地域	南信地域	中信地域	北信地域	合計
18－29歳	37	38	45	44	164
30－39歳	42	42	42	42	168
40－49歳	42	42	42	42	168
50－59歳	42	42	42	42	168
60－64歳	42	42	42	42	168
65歳以上	41	41	41	41	164
合計	246	247	254	253	1,000

5 住まいに関する県民インターネットアンケート調査報告（令和8年1月5日～19日）

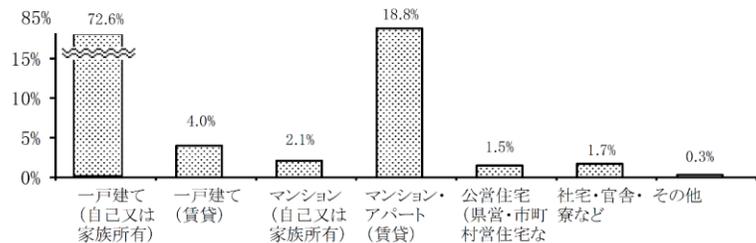
(5) 回収対象者の分類

【住まいの立地】

	実数	割合
市街地(大きな都市の中心部)	157	15.7%
郊外の住宅地(大きな都市の中心部周辺や隣接町村)	503	50.3%
町村の中心部(中心集落)	159	15.9%
農山村中山間地	167	16.7%
保健休養地	7	0.7%
その他	7	0.7%
合計	1,000	100.0%

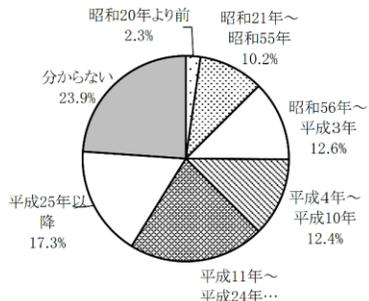
【住宅形態】

	実数	割合
一戸建て(自己又は家族所有)	716	71.6%
一戸建て(賃貸)	40	4.0%
マンション(自己又は家族所有)	21	2.1%
マンション・アパート(賃貸)	188	18.8%
公営住宅(県営・市町村営住宅など)	15	1.5%
社宅・官舎・寮など	17	1.7%
その他	3	0.3%
合計	1,000	100.0%



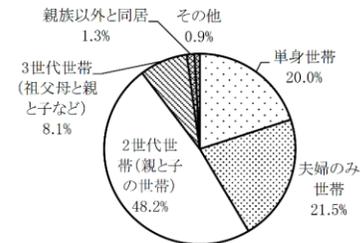
【築年数】

	実数	割合
昭和20年より前	23	2.3%
昭和21年～昭和55年	102	10.2%
昭和56年～平成3年	126	12.6%
平成4年～平成10年	124	12.4%
平成11年～平成24年	213	21.3%
平成25年以降	173	17.3%
分からない	239	23.9%
合計	1,000	100.0%



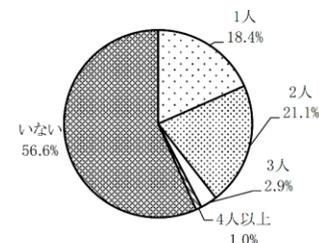
【世帯構成】

	実数	割合
単身世帯	200	20.0%
夫婦のみ世帯	215	21.5%
2世代世帯(親と子の世帯)	482	48.2%
3世代世帯(祖父母と親と子など)	81	8.1%
親族以外と同居	13	1.3%
その他	9	0.9%
合計	1,000	100.0%



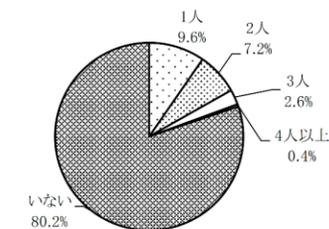
【65歳以上の方】

	実数	割合
1人	184	18.4%
2人	211	21.1%
3人	29	2.9%
4人以上	10	1.0%
いない	566	56.6%
合計	1,000	100.0%



【18歳未満の方】

	実数	割合
1人	96	9.6%
2人	72	7.2%
3人	26	2.6%
4人以上	4	0.4%
いない	802	80.2%
合計	1,000	100.0%



5 住まいに関する県民インターネットアンケート調査報告（令和8年1月5日～19日）
 (6) 集計結果（選択肢による回答のみ）

問9 「衣」「食」「住」のうち、あなたの「住」（住まい）は、10年前に比べて良くなっていますか。

全体	良くなっている	やや良くなっている	どちらとも言えない	やや悪くなっている	悪くなっている
1000	105	119	475	190	111
100.0	10.5	11.9	47.5	19.0	11.1

上段：回答数
 下段：回答割合（%）以下設問も同様
 グラフ内数値は回答割合（%）を表示

前回調査との比較（グラフ）参照

要点：「どちらとも言えない」が47.5%が最多。
 悪化（計30.1%）が改善（22.4%）を上回る。

問10 自分が住んでもよいと思う住宅について、あなたの考えに最も近いものを次の中から選んでください。

全体	新築の持家が 良い	条件によって は中古の持家 でも良い	賃貸住宅 （新築・中 古）が良い	特にこだわら ない
1000	377	250	89	284
100.0	37.7	25.0	8.9	28.4

前回調査との比較（グラフ）参照

要点：新築持家37.7%、中古持家25.0%、
 特にこだわらない28.4%、賃貸8.9%

問11 （問10で1を選んだ方におたずねします。）中古住宅を選択しなかった理由を次の中から2つ以内で選んでください。

全体	早い時期にリ フォーム（修 繕や増改築な ど）が必要と なりそうだから	耐久性に問 題がありそう だから	資産価値の 割に価格が高 そうだから	他の人が利用 した住宅に住 みたくないから	希望通りの住 宅が見つかり にくそうだから	見えない部分 の状態に不安 があるから	断熱効果が 不十分（寒 そう）だから	その他
377	121	119	16	110	80	101	49	4
100.0	32.1	31.6	4.2	29.2	21.2	26.8	13.0	1.1

前回調査との比較（グラフ）参照

要点：早期リフォーム必要32.1%、耐久性不安31.6%、
 他人使用に抵抗29.2%、見えない部分不安26.8%

問12 住宅を新築・購入するとしたら、どのような構造の住宅を選びますか。

全体	一戸建ての木 造住宅で、在 来工法のもの	一戸建ての木 造住宅で、在 来工法以外の もの（プレハ ブ工法、枠組 壁工法（2 ×4）など）	一戸建ての非 木造住宅 （鉄骨造や 鉄筋コンクリ ート造の住宅）	マンションなど の集合住宅	特にこだわら ない	その他
1000	300	118	116	78	381	7
100.0	30.0	11.8	11.6	7.8	38.1	0.7

前回調査との比較（グラフ）参照

要点：木造在来工法30.0%、特にこだわらない38.1%、
 木造在来工法以外11.8%、非木造11.6%

問13 住宅を新築したりリフォームするとしたら、どこに依頼しようと思いますか。※複数にあてはまる場合は、最もあてはまる依頼先をお答えください。

全体	大手ハウスマ ーカー	地元の大工・ 工務店	設計は設計 事務所、建設 は大工・工務 店	特にこだわら ない	その他
1000	290	219	50	432	9
100.0	29.0	21.9	5.0	43.2	0.9

前回調査との比較（グラフ）参照

要点：特にこだわらない43.2%、大手ハウスマーカー29.0%、
 地元の大工・工務店21.9%

問14 （問13で1から3を選んだ方におたずねします。）その主な理由を次の中から2つ以内で選んでください。

全体	技術力が高い から	経験が豊富だ から	知名度が高い から	建設費が安い から	アフターサービ スがよいから	知り合いがい る、または自 分と関係して いるから	人柄が信頼で きそうだから	細かな要望に も応えてくれ そうだから	その他
559	251	183	77	77	149	74	47	87	14
100.0	44.9	32.7	13.8	13.8	26.7	13.2	8.4	15.6	2.5

前回調査との比較（グラフ）参照

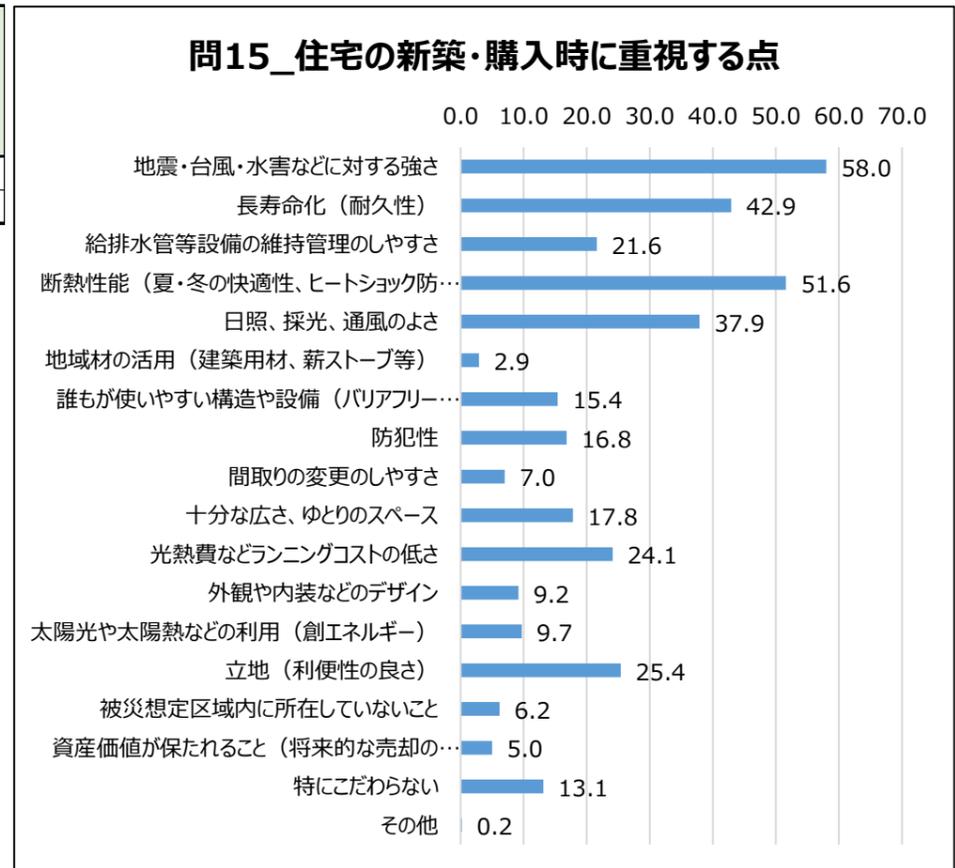
要点：技術力が高い44.9%、経験が豊富32.7%、
 アフターサービスが良い26.7%、要望にも応えてくれそう15.6%

問15 住宅を新築・購入するとしたら、どのような点を特に重視しますか。次の中から5つ以内で選んでください。

全体	地震・台風・水害などに対する強さ	長寿命化（耐久性）	給排水管等設備の維持管理のしやすさ	断熱性能（夏・冬の快適性、ヒートショック防止）	日照、採光、通風のよさ	地域材の活用（建築用材、薪ストーブ等）	誰もが使いやすい構造や設備（バリアフリー等）	防犯性	間取りの変更のしやすさ
1000	580	429	216	516	379	29	154	168	70
100.0	58.0	42.9	21.6	51.6	37.9	2.9	15.4	16.8	7.0

十分な広さ、ゆとりのスペース	光熱費などランニングコストの低さ	外観や内装などのデザイン	太陽光や太陽熱などの利用（創エネルギー）	立地（利便性の良さ）	被災想定区域内に所在していないこと	資産価値が保たれること（将来的な売却のしやすさ）	特にこだわらない	その他
178	241	92	97	254	62	50	131	2
17.8	24.1	9.2	9.7	25.4	6.2	5.0	13.1	0.2

要点：地震などに対する強さ58%、断熱性能51.6%、長寿命化42.9%、日照・採光・通風のよさ37.9%、立地25.4%



問16 自宅の周辺環境で不満を感じていることはありますか。該当するものを次の中から5つ以内で選んでください。

全体	火災・地震・水害などに対する安全性	まわりの道路の歩行時の安全性	騒音、振動、空気・水の汚れ	通勤・通学などの利便性	日常の買い物、医療・福祉施設などの利便性	大型商業施設、娯楽施設の充実	公共交通機関の利便性
1000	189	135	129	141	215	165	242
100.0	18.9	13.5	12.9	14.1	21.5	16.5	24.2

子どもの遊び場・公園などの充実	緑・水辺など自然の豊かさ	日当たり、風通しなど空間のゆとり	まちなみの景観	近隣の人たちや地域とのつながり	親族（親・子どもなど）の住宅との距離	特になし	その他
64	40	136	51	102	44	362	9
6.4	4.0	13.6	5.1	10.2	4.4	36.2	0.9

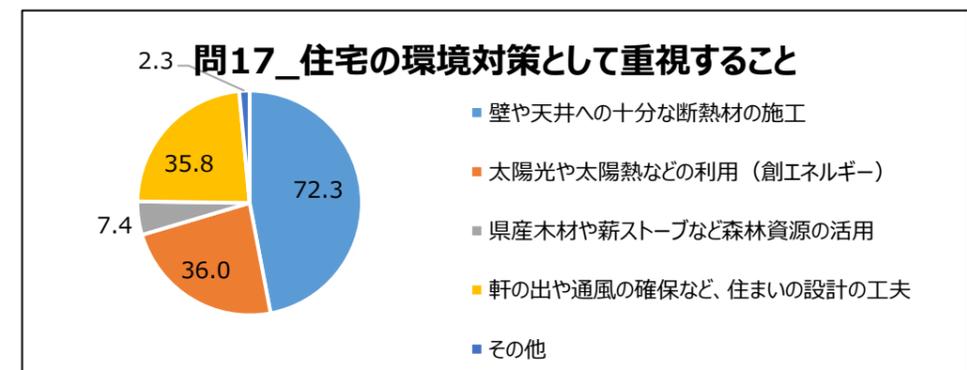
前回調査との比較（グラフ）参照

要点：特になし36.2%、公共交通機関の利便性24.2%、日常に使用するしせつの利便性21.5%、火災などの災害に対する安全性18.9%

問17 住宅の環境対策として、何を重視しますか。次の中から2つ以内で選んでください。

全体	壁や天井への十分な断熱材の施工	太陽光や太陽熱などの利用（創エネルギー）	県産木材や薪ストーブなど森林資源の活用	軒の出や通風の確保など、住まいの設計の工夫	その他
1000	723	360	74	358	23
100.0	72.3	36.0	7.4	35.8	2.3

要点：断熱材の施工72.3%が最多。太陽光等36.0%、設計工夫35.8%



問18 住宅の脱炭素化に向け、省エネルギー住宅を建築する際、光熱費等の削減を見越し、いくらまでなら建設費を上乗せできますか。

全体	50万円未満	50万円以上100万円未満	100万円以上200万円未満	200万円以上300万円未満	300万円以上400万円未満	400万円以上500万円未満	500万円以上
1000	413	265	177	94	15	14	22
100.0	41.3	26.5	17.7	9.4	1.5	1.4	2.2

要点：50万円未満41.3%が最多、50～100万円26.5%、100～200万円17.7%

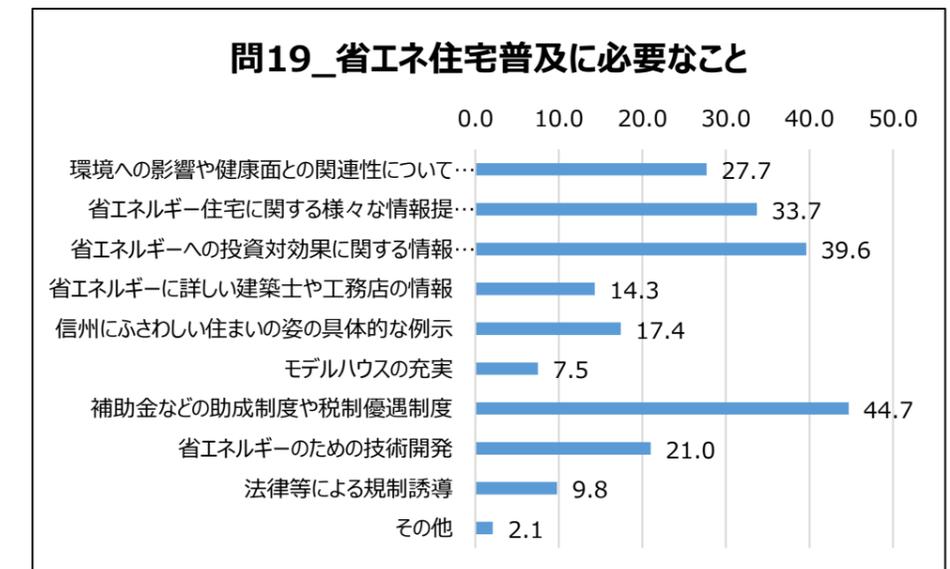


問19 省エネルギー住宅を普及させるためには何が必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んで下さい。

全体	環境への影響や健康面との関連性についての理解の浸透	省エネルギー住宅に関する様々な情報提供（材料、設備、工法等）	省エネルギーへの投資対効果に関する情報（コスト比較等）	省エネルギーに詳しい建築士や工務店の情報	信州にふさわしい住まいの姿の具体的な例示	モデルハウスの充実	補助金などの助成制度や税制優遇制度	省エネルギーのための技術開発
1000	277	337	396	143	174	75	447	210
100.0	27.7	33.7	39.6	14.3	17.4	7.5	44.7	21.0

法律等による規制誘導	その他
98	21
9.8	2.1

要点：補助・税制44.7%が最多。投資対効果情報39.6%、仕様等の情報提供33.7%



問20 仮に現在住んでいる住宅の耐震性が不足した場合、どのような対策をとろうと思いますか。※複数にあてはまる場合は、最もあてはまる対策をお答えください。

全体	全く壊れないように住宅を補強したい	倒壊せず避難ができる程度に住宅を補強したい	特に住宅の補強はしないが、耐震シェルター（耐震ベッド）を設置することで、少なくとも就寝時の安全は確保したい	特に住宅の補強はしないが、本棚などの家具の転倒防止対策は行いたい	現在の住宅の対策をとるのではなく、建て替えや別の住宅への住み替えをしたい	特に対策をとらない	その他
1000	206	249	59	167	103	189	27
100.0	20.6	24.9	5.9	16.7	10.3	18.9	2.7

前回調査との比較（グラフ）参照

要点：「避難できる程度の補強」24.9%、「全く壊れない補強」20.6%、「家具転倒防止」16.7%、「対策しない」18.9%

問21 (問20で3から5を選んだ方におたずねします。) その主な理由を選んでください。

全体	資金に余裕がないから	どの業者に依頼すればよいか分からないから	居住性や使い勝手が悪くなりそうだから	住み続けながらの工事は大変そうだから	自分が住んでいる間には、大地震は来ないと思うから	住宅の後継者がおらず、お金をかける気がないから	借家だから	その他
329	124	15	31	50	16	36	46	11
100.0	37.7	4.6	9.4	15.2	4.9	10.9	14.0	3.3

前回調査との比較（グラフ）参照

要点：資金不足37.7%、住み続けながらの工事の大変さ15.2%、借家14.0%、後継者不在10.9%

問22 高齢者になったとき（現在高齢者の方も含まれます。）のことを考えて、現在住んでいる住宅及びその地域について不安に感じることはありますか。次の中から2つ以内選んでください。

全体	住居費（改修費や家賃など）の負担	災害時の安全性	手すりが無い、段差があるなど、バリアフリー化されていないこと	病院や福祉施設などが近くにないこと	商店が近くにないこと	まわりの道路の歩行時の安全性	親族が近くにないこと	公共交通機関が不便なこと
1000	287	188	151	141	124	62	65	223
100.0	28.7	18.8	15.1	14.1	12.4	6.2	6.5	22.3

前回調査との比較（グラフ）参照

要点：住居費28.7%、公共交通機関が不便22.3%、災害時の安全性18.8%、バリアフリー未対応15.1%

近隣や地域とのつながり	相続に関すること（名義変更など）	空き家問題（放置・解体・活用など）が起きないか心配	特になし	その他
34	67	57	180	3
3.4	6.7	5.7	18.0	0.3

問23 高齢者になったとき（現在高齢者の方も含まれます。）、誰と一緒に住む予定ですか。

全体	単身または夫婦だけで住む	子どもなど親族と一緒に住む	親族の近くで単身または夫婦だけで住む	知人や友人と一緒に住む	その他
1000	691	161	82	36	30
100.0	69.1	16.1	8.2	3.6	3.0

前回調査との比較（グラフ）参照

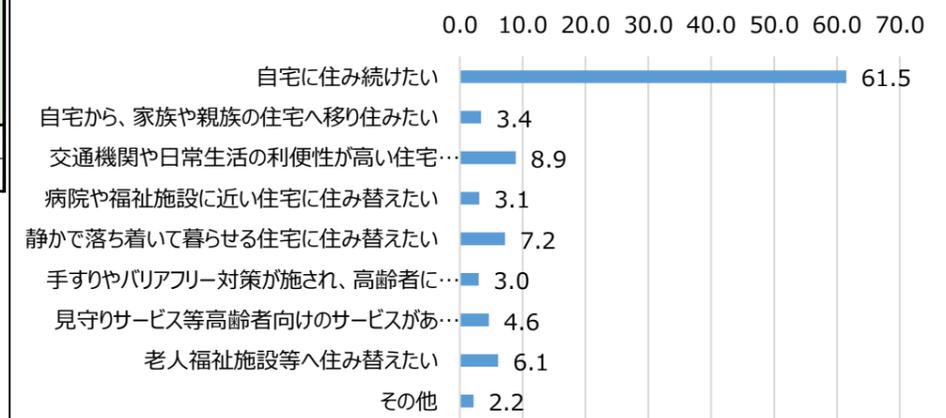
要点：単身または夫婦だけで住む69.1%

問24 高齢者になったとき（現在高齢者の方も含まれます。）、住み替えたいと思いますか。※最も近いものを次の中から選んでください。

全体	自宅に住み続けたい	自宅から、家族や親族の住宅へ移り住みたい	交通機関や日常生活の利便性が高い住宅に住み替えたい	病院や福祉施設に近い住宅に住み替えたい	静かで落ち着いた暮らせる住宅に住み替えたい	手すりやバリアフリー対策が施され、高齢者に配慮した住宅へ住み替えたい	見守りサービス等高齢者向けのサービスがある住宅へ住み替えたい	老人福祉施設等へ住み替えたい	その他
1000	615	34	89	31	72	30	46	61	22
100.0	61.5	3.4	8.9	3.1	7.2	3.0	4.6	6.1	2.2

要点：自宅に住み続けたい61.5%で多数

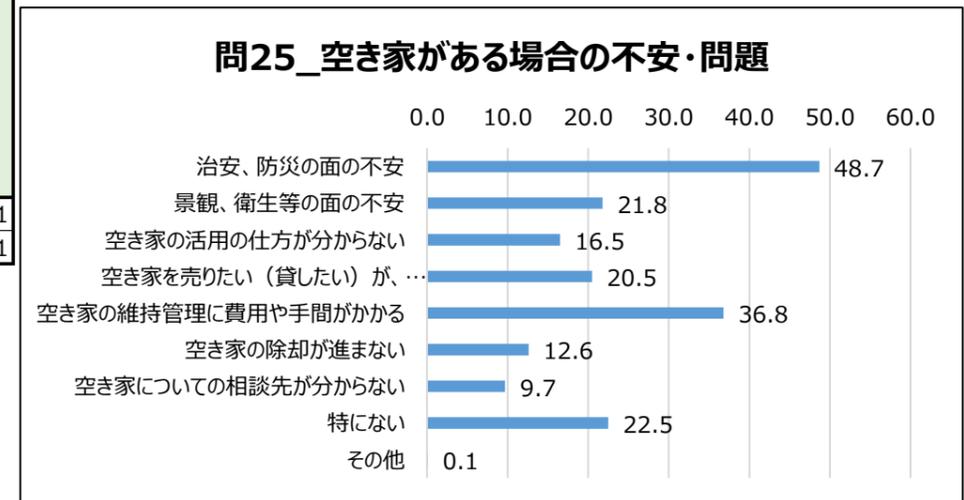
問24_高齢者になったときの住み替え意向



問25 空き家がある場合に生じる不安や問題等は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。（空き家を所有していない方は空き家を所有していると仮定して回答ください。）

全体	治安、防災の面の不安	景観、衛生等の面の不安	空き家の活用の仕方が分からない	空き家を売りたい（貸したい）が、買い手（借り手）が見つからない	空き家の維持管理に費用や手間がかかる	空き家の除却が進まない	空き家についての相談先が分からない	特になし	その他
1000	487	218	165	205	368	126	97	225	1
100.0	48.7	21.8	16.5	20.5	36.8	12.6	9.7	22.5	0.1

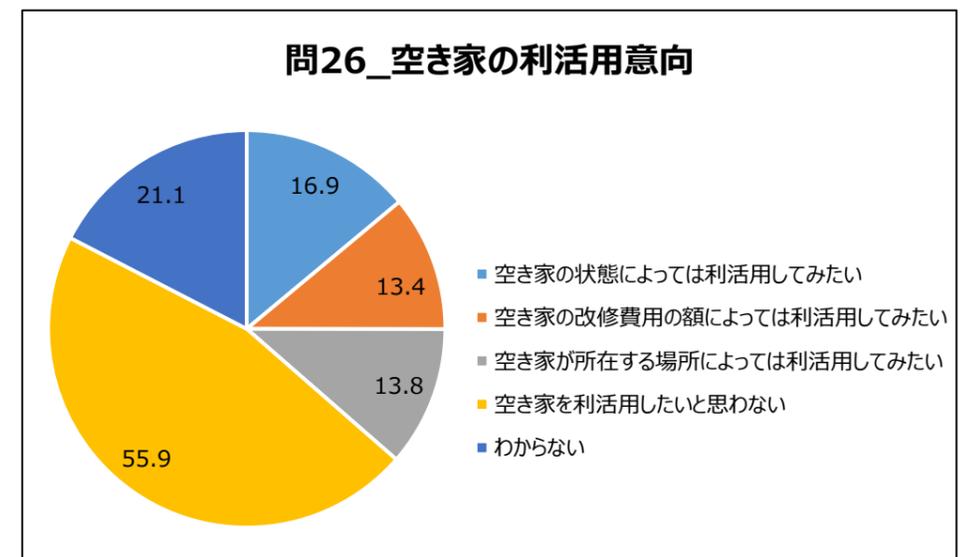
要点：治安・防災の不安48.7%、維持管理（費用・手間）36.8%



問26 あなたは空き家を利活用してみたいと思いますか。

全体	空き家の状態によっては利活用してみたい	空き家の改修費用の額によっては利活用してみたい	空き家が所在する場所によっては利活用してみたい	空き家を利活用したいと思わない	わからない
1000	169	134	138	559	211
100.0	16.9	13.4	13.8	55.9	21.1

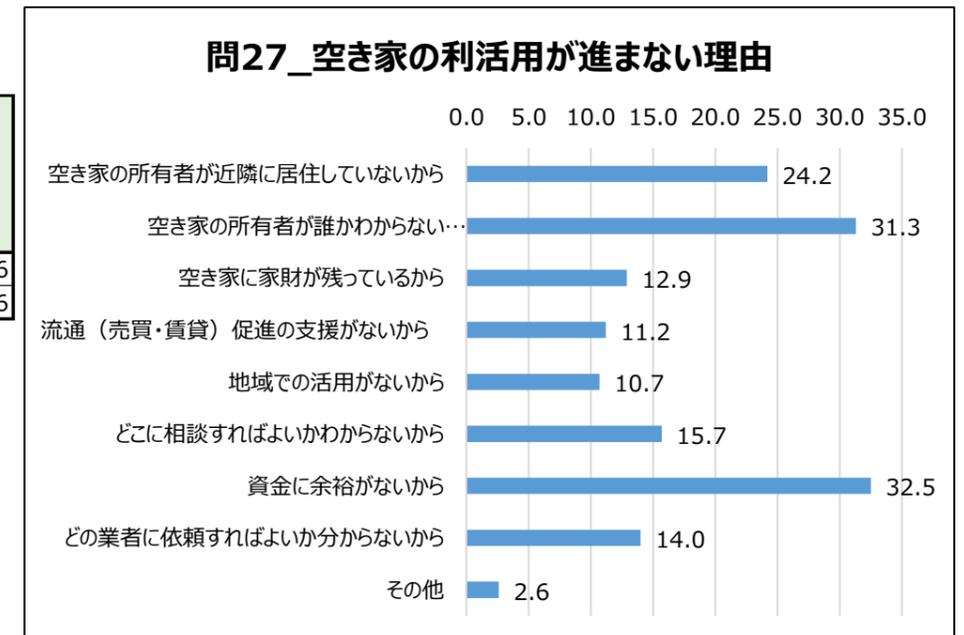
要点：利活用は「しない」55.9%が最多



問27 空き家の利活用や除却が進まない理由はどこにあると考えますか。次の中から2つ以内で選んでください。

全体	空き家の所有者が近隣に居住していないから	空き家の所有者が誰かわからない・既に亡くなっているから	空き家に家財が残っているから	流通（売買・賃貸）促進の支援がないから	地域での活用がないから	どこに相談すればよいか分からないから	資金に余裕がないから	どの業者に依頼すればよいか分からないから	その他
1000	242	313	129	112	107	157	325	140	26
100.0	24.2	31.3	12.9	11.2	10.7	15.7	32.5	14.0	2.6

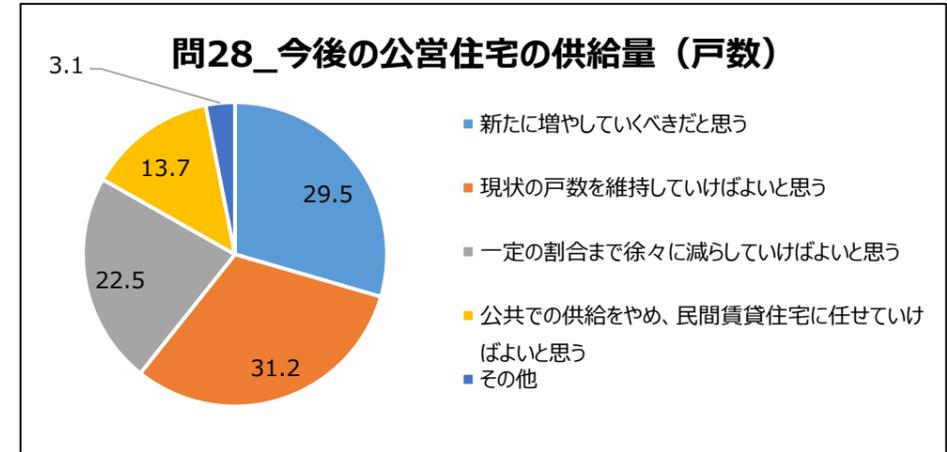
要点：資金に余裕がない32.5%、所有者不明31.3%



問28_ 公営住宅は、住宅にお困りで一定の収入以下の方に、低廉な家賃で住宅を賃貸することを目的としており、住宅のセーフティネットの役割を大きく担っているところです。あなたは、このような現状の中、今後の公営住宅の供給量（戸数）をどのようにしたらよいと思いますか。

全体	新たに増やしていくべきだと思う	現状の戸数を維持していけばよいと思う	一定の割合まで徐々に減らしていけばよいと思う	公共での供給をやめ、民間賃貸住宅に任せていけばよいと思う	その他
1000	295	312	225	137	31
100.0	29.5	31.2	22.5	13.7	3.1

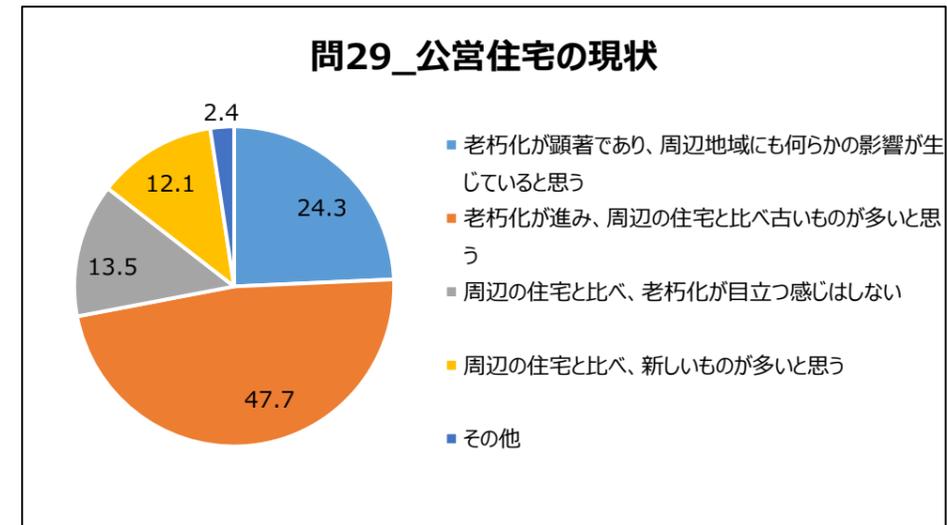
要点：現状維持31.2%、増やす29.5%



問29_ 公営住宅の現状は、昭和30年～昭和40年代に建設された住宅が数多くあるところです。あなたは、現在の公営住宅の状態をどのように感じていますか。

全体	老朽化が顕著であり、周辺地域にも何らかの影響が生じていると思う	老朽化が進み、周辺の住宅と比べ古いものが多いと思う	周辺の住宅と比べ、老朽化が目立つ感じはしない	周辺の住宅と比べ、新しいものが多いと思う	その他
1000	243	477	135	121	24
100.0	24.3	47.7	13.5	12.1	2.4

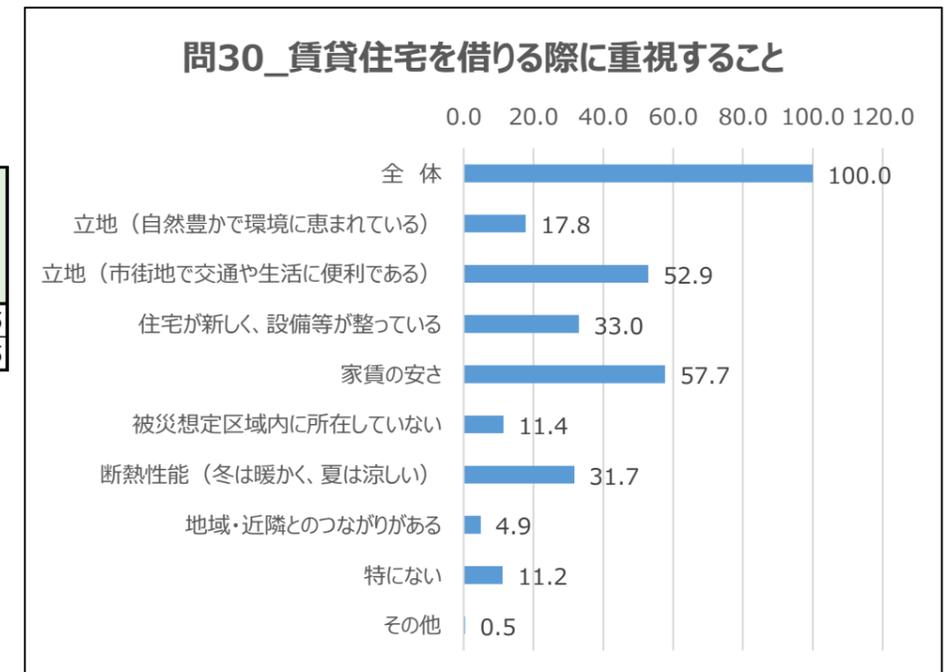
要点：老朽化進み、周辺の住宅と比べ古い47.7%



問30_ 賃貸住宅を借りる場合に、何を重視しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

全体	立地（自然豊かで環境に恵まれている）	立地（市街地で交通や生活に便利である）	住宅が新しく、設備等が整っている	家賃の安さ	被災想定区域内に所在していない	断熱性能（冬は暖かく、夏は涼しい）	地域・近隣とのつながりがある	特にない	その他
1000	178	529	330	577	114	317	49	112	5
100.0	17.8	52.9	33.0	57.7	11.4	31.7	4.9	11.2	0.5

要点：家賃の安さ57.7%、立地（市街地）52.9%、新しさ・設備33.0%、断熱性能31.7%

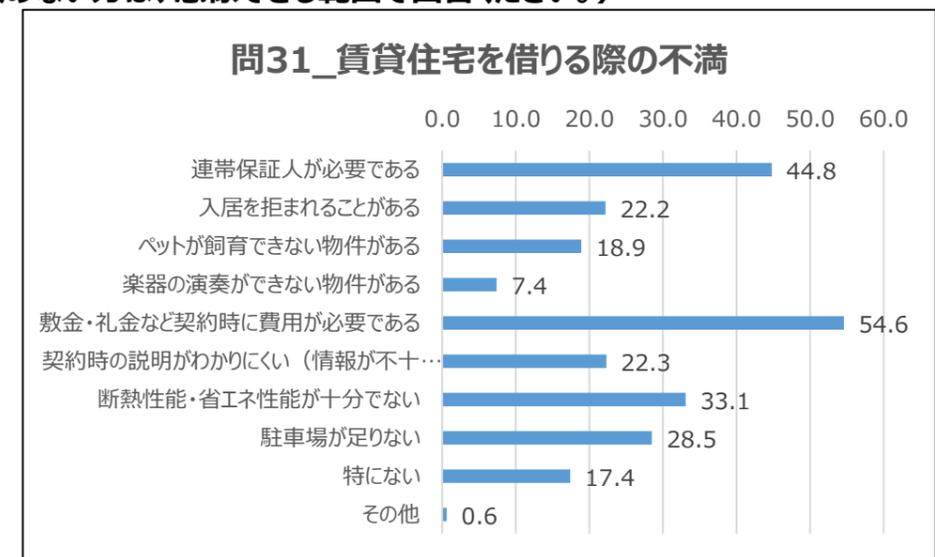


問31 賃貸住宅を借りる際に感じる不満は何ですか。次の中から5つ以内で選んでください。（住宅を借りた経験のない方は、想像できる範囲で回答ください。）

全体	連帯保証人が必要である	入居を拒まれることがある	ペットが飼育できない物件がある	楽器の演奏ができない物件がある	敷金・礼金など契約時に費用が必要である	契約時の説明がわかりにくい（情報が不十分）	断熱性能・省エネ性能が十分でない	駐車場が足りない
1000	448	222	189	74	546	223	331	285
100.0	44.8	22.2	18.9	7.4	54.6	22.3	33.1	28.5

特になし	その他
174	6
17.4	0.6

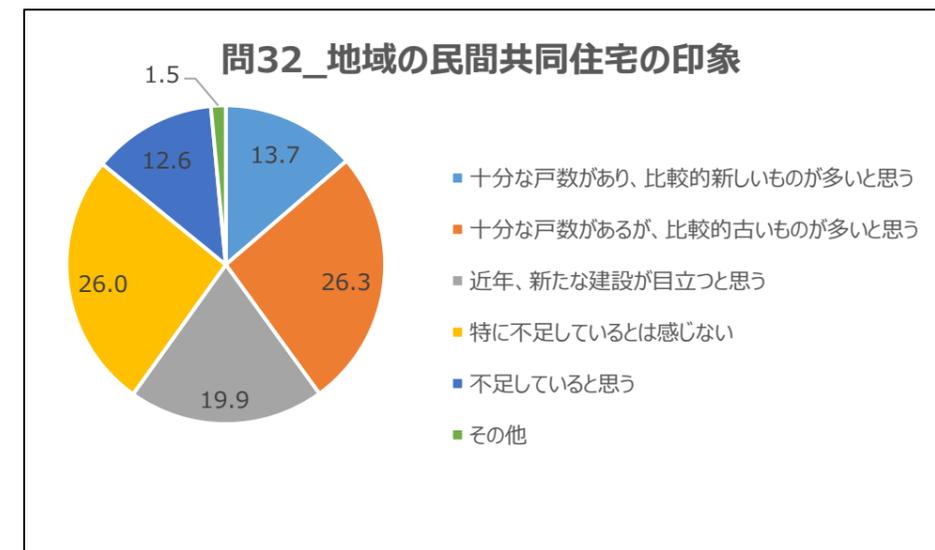
要点：契約時の費用54.6%、連帯保証人が必要44.8%、断熱性能不足33.1%



問32 地域の民間賃貸共同住宅（アパート・マンション等）について、どのように感じていますか。

全体	十分な戸数があり、比較的新しいものが多いと思う	十分な戸数があるが、比較的古いものが多いと思う	近年、新たな建設が目立つと思う	特に不足しているとは感じない	不足していると思う	その他
1000	137	263	199	260	126	15
100.0	13.7	26.3	19.9	26.0	12.6	1.5

要点：戸数はあるが比較的古いものが多い26.3%、特に不足していない26.0%



問33 現在住んでいる地区のまちなみ景観について、どのような印象をお持ちですか。

全体	大変良い	まあ良い	どちらとも言えない	あまり良くない	良くない
1000	50	381	453	91	25
100.0	5.0	38.1	45.3	9.1	2.5

前回調査との比較（グラフ）参照

要点：「どちらとも言えない」45.3%、「まあ良い」38.1%

問34 （問33で4または5を選んだ方におたずねします。）その主な理由を次の中から2つ以内で選んでください。

全体	周囲の景観に調和していない建物や工作物があるから（外壁の色、形など）	電柱、電線が気になるから	看板、広告塔が乱立しているから	ポスターなどが氾濫しているから	塀、垣根などに緑が少ないから	街路樹などが少ないから	自動販売機が目立つから	老朽建物や空き家があるから	積極的な景観育成の取組がなく、殺風景だから	その他
116	25	27	7	5	10	10	2	38	44	4
100.0	21.6	23.3	6.0	4.3	8.6	8.6	1.7	32.8	37.9	3.4

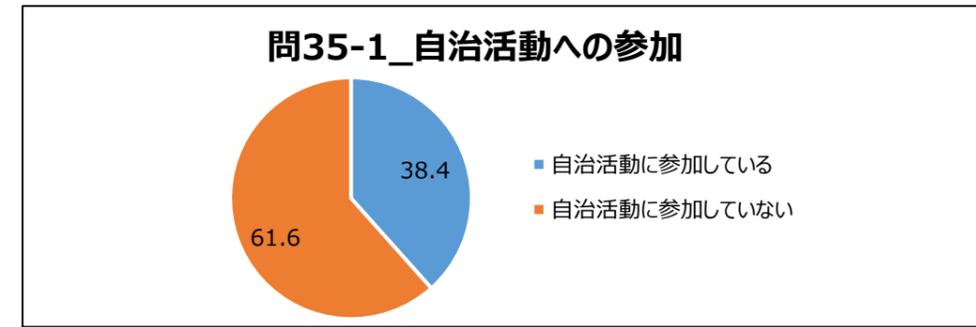
前回調査との比較（グラフ）参照

要点：「積極的な景観育成がない」37.9%、「老朽建物・空き家」32.8%が上位

問35-1 地域の自治活動に参加していますか。

全体	自治活動に参加している	自治活動に参加していない
1000	384	616
100.0	38.4	61.6

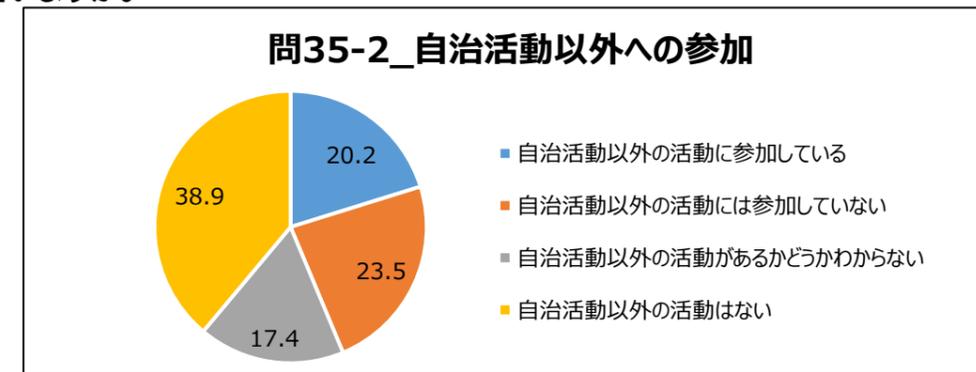
要点：参加していない61.6%、参加している38.4%



問35-2 地域の自治活動以外の活動（友人や近隣住民等、地域との交流・つながりを持つ活動）に参加していますか。

全体	自治活動以外の活動に参加している	自治活動以外の活動には参加していない	自治活動以外の活動があるかどうかかわからない	自治活動以外の活動はない
1000	202	235	174	389
100.0	20.2	23.5	17.4	38.9

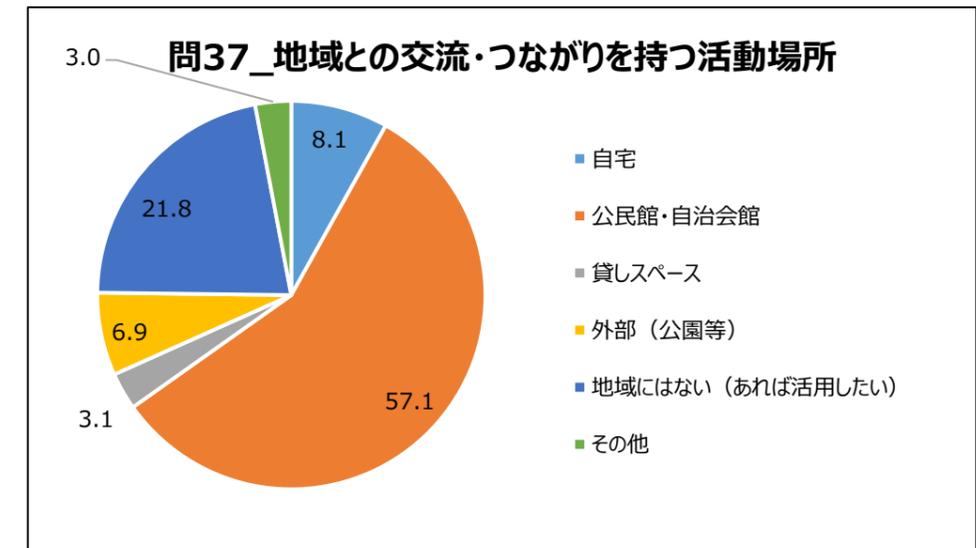
要点：自治活動以外「活動はない」38.9%、「参加していない」23.5%



問37 近隣住民や地域との交流・つながりを持つ活動をするための場所はどこですか。

全体	自宅	公民館・自治会館	貸しスペース	外部（公園等）	地域にはない（あれば活用したい）	その他
1000	81	571	31	69	218	30
100.0	8.1	57.1	3.1	6.9	21.8	3.0

要点：公民館・自治会館57.1%、地域にない（あれば活用したい）21.8%

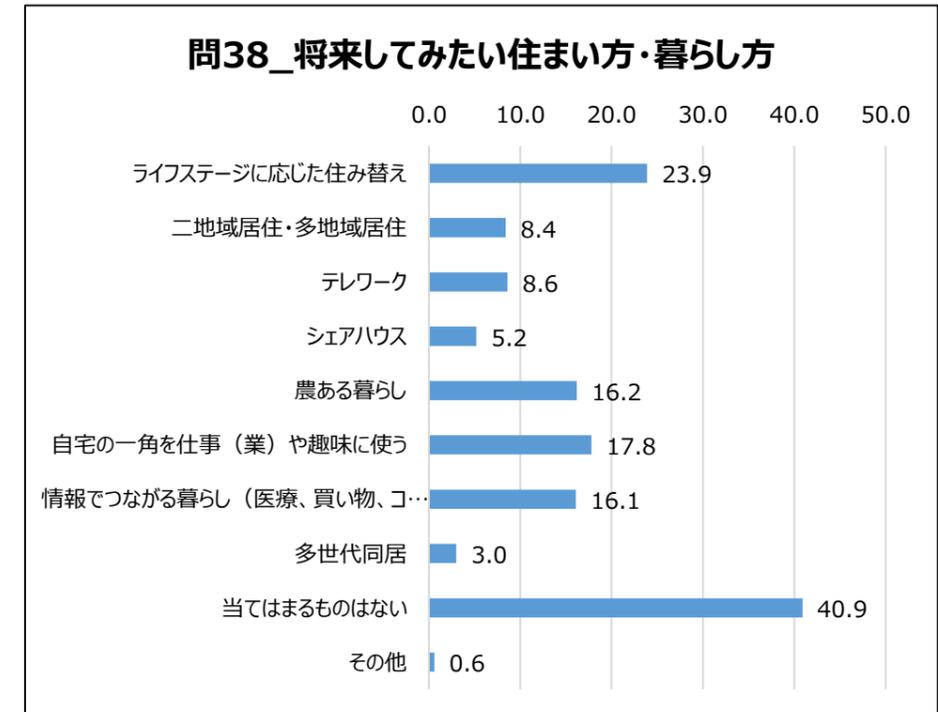


問38 あなたが将来してみたい住まい方・暮らし方について当てはまるものはありますか。次の中から3つ以内で選んでください。

全体	ライフステージに応じた住み替え	二地域居住・多地域居住	テレワーク	シェアハウス	農ある暮らし	自宅の一角を仕事（業）や趣味に使う	情報でつながる暮らし（医療、買い物、コミュニティ等）
1000	239	84	86	52	162	178	161
100.0	23.9	8.4	8.6	5.2	16.2	17.8	16.1

多世代同居	当てはまるものはない	その他
30	409	6
3.0	40.9	0.6

要点：公民館・自治会館57.1%、地域にない（あれば活用したい）21.8%

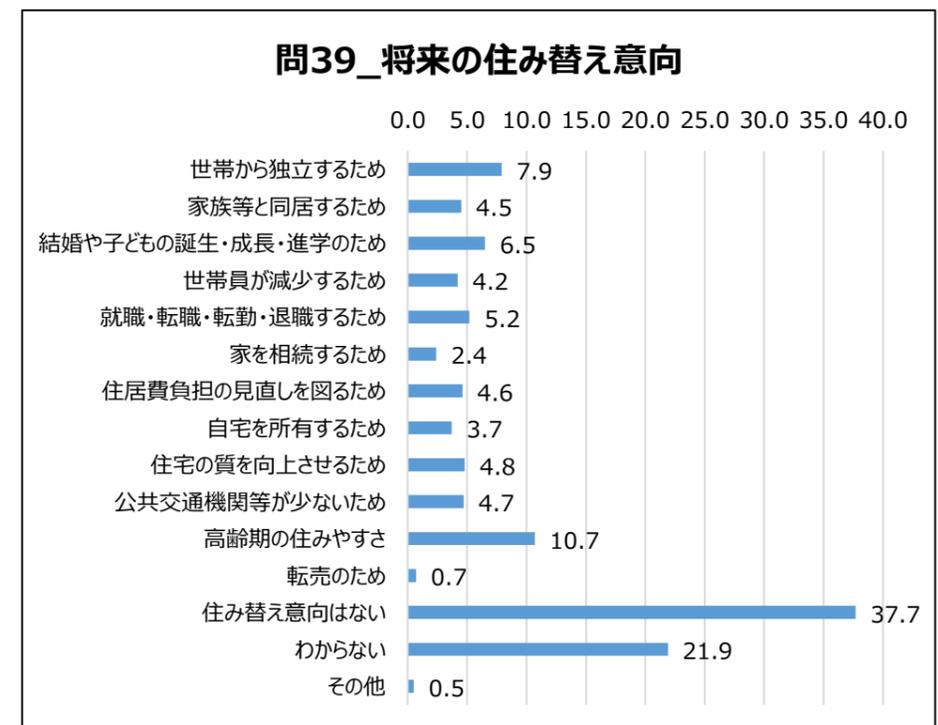


問39 今後10年以内の住み替えを考えている場合、その主な理由を次の中から2つ以内で選んでください。

全体	世帯から独立するため	家族等と同居するため	結婚や子どもの誕生・成長・進学のため	世帯員が減少するため	就職・転職・転勤・退職するため	家を相続するため	住居費負担の見直しを図るため	自宅を所有するため
1000	79	45	65	42	52	24	46	37
100.0	7.9	4.5	6.5	4.2	5.2	2.4	4.6	3.7

住宅の質を向上させるため	公共交通機関等が少ないため	高齢期の住みやすさ	転売のため	住み替え意向はない	わからない	その他
48	47	107	7	377	219	5
4.8	4.7	10.7	0.7	37.7	21.9	0.5

要点：住替える意向はない37.7%、わかり21.9%

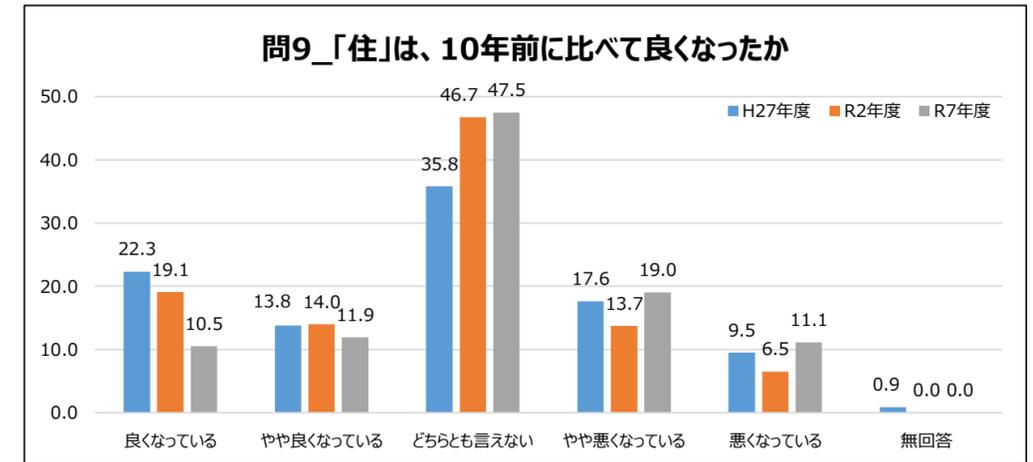


5 住まいに関する県民インターネットアンケート調査報告（令和8年1月5日～19日）
 (7) 集計結果（前回との比較）

問9_「衣」「食」「住」のうち、「住」は、10年前に比べて良くなったか

	H27年度		R2年度		R7年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全体	986	100.0	1000	100.0	1000	100.0
良くなっている	220	22.3	191	19.1	105	10.5
やや良くなっている	136	13.8	140	14.0	119	11.9
どちらとも言えない	353	35.8	467	46.7	475	47.5
やや悪くなっている	174	17.6	137	13.7	190	19.0
悪くなっている	94	9.5	65	6.5	111	11.1
無回答	9	0.9	-	-	-	-

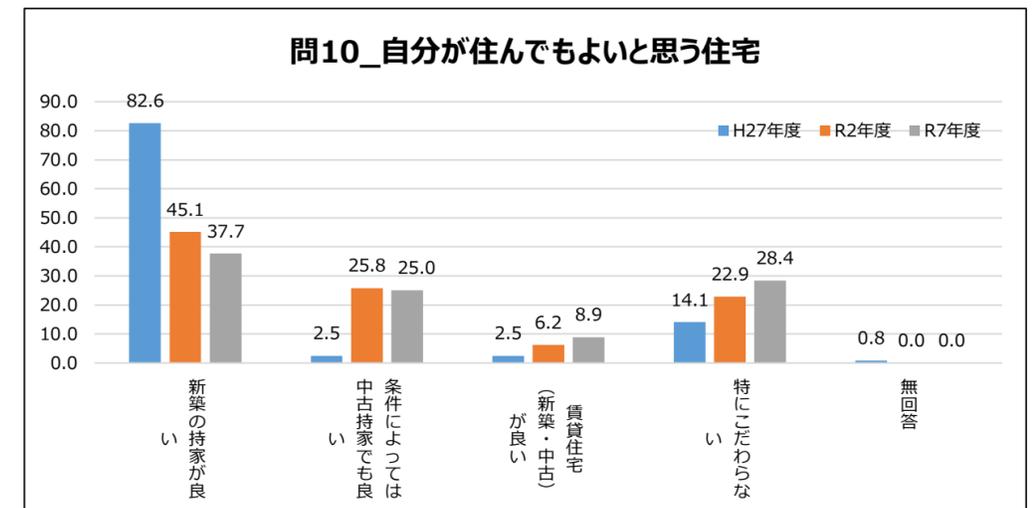
要点：回を追うごとに「改善」は減り、「悪化」傾向がじわり増加。R7では生活の体感的な住環境満足度が低下。



問10_自分が住んでもよいと思う住宅

	H27年度		R2年度		R7年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全体	986	100.0	1000	100.0	1000	100.0
新築の持家がよい	814	82.6	451	45.1	377	37.7
条件によっては中古の持家でもよい	25	2.5	258	25.8	250	25.0
賃貸住宅（新築・中古）がよい	25	2.5	62	6.2	89	8.9
特にこだわらない	139	14.1	229	22.9	284	28.4
無回答	8	0.8	-	-	-	-

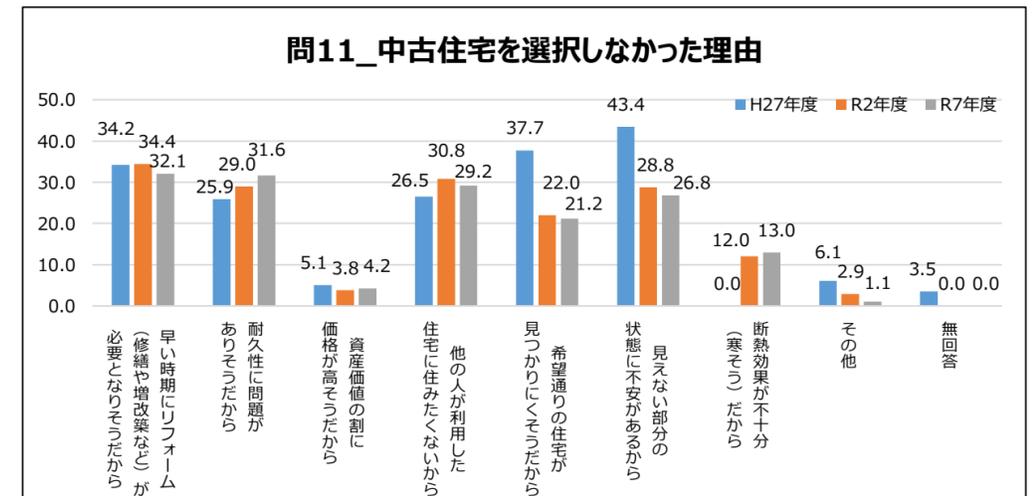
要点：新築志向は継続してトップだが長期低下。多様な選択肢（中古・賃貸）を容認する層が増加。



問11_（前問で）中古住宅を選択しなかった理由（2つまで選択可）

	H27年度		R2年度		R7年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全体	916	100.0	451	100.0	377	100.0
早い時期にリフォーム（修繕や増改築など）が必要となりそうだから	313	34.2	155	34.4	121	32.1
耐久性に問題がありそうだから	237	25.9	131	29.0	119	31.6
資産価値の割に価格が高そうだから	47	5.1	17	3.8	16	4.2
他の人が利用した住宅に住みたくないから	243	26.5	139	30.8	110	29.2
希望通りの住宅が見つかりにくそうだから	345	37.7	99	22.0	80	21.2
見えない部分の状態に不安があるから	398	43.4	130	28.8	101	26.8
断熱効果が不十分（寒そう）だから	-	-	54	12.0	49	13.0
その他	56	6.1	13	2.9	4	1.1
無回答	32	3.5	-	-	-	-

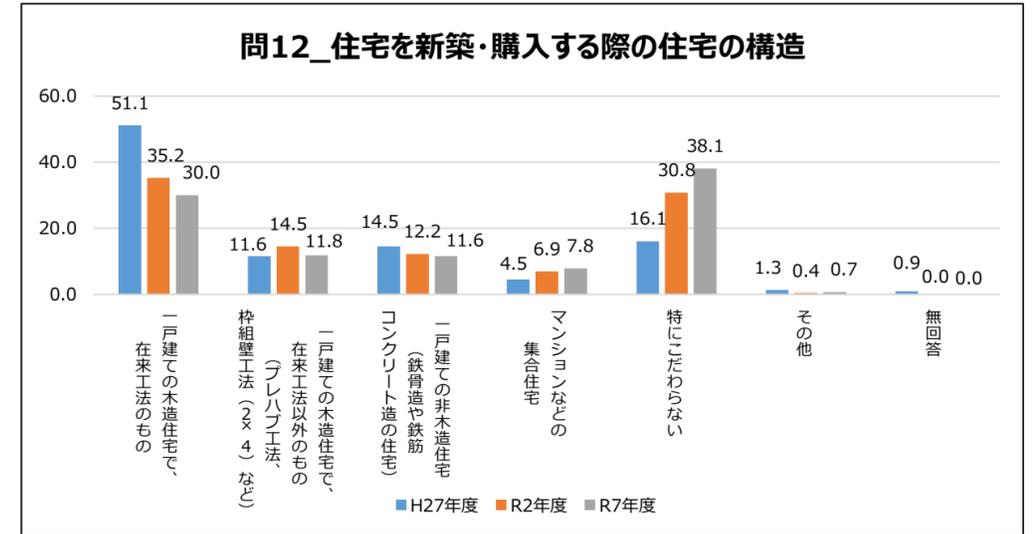
要点：性能や状態の不確実性が一貫して最大の障壁。R7でも変わらず。



問12_ 住宅を新築・購入する際の住宅の構造

	H27年度		R2年度		R7年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全体	986	100.0	1000	100.0	1000	100.0
一戸建ての木造住宅で、在来工法のもの	504	51.1	352	35.2	300	30.0
一戸建ての木造住宅で、在来工法以外のもの（プレハブ工法、枠組壁工法（2×4）など）	114	11.6	145	14.5	118	11.8
一戸建ての非木造住宅（鉄骨造や鉄筋コンクリート造の住宅）	143	14.5	122	12.2	116	11.6
マンションなどの集合住宅	44	4.5	69	6.9	78	7.8
特にこだわらない	159	16.1	308	30.8	381	38.1
その他	13	1.3	4	0.4	7	0.7
無回答	9	0.9	-	-	-	-

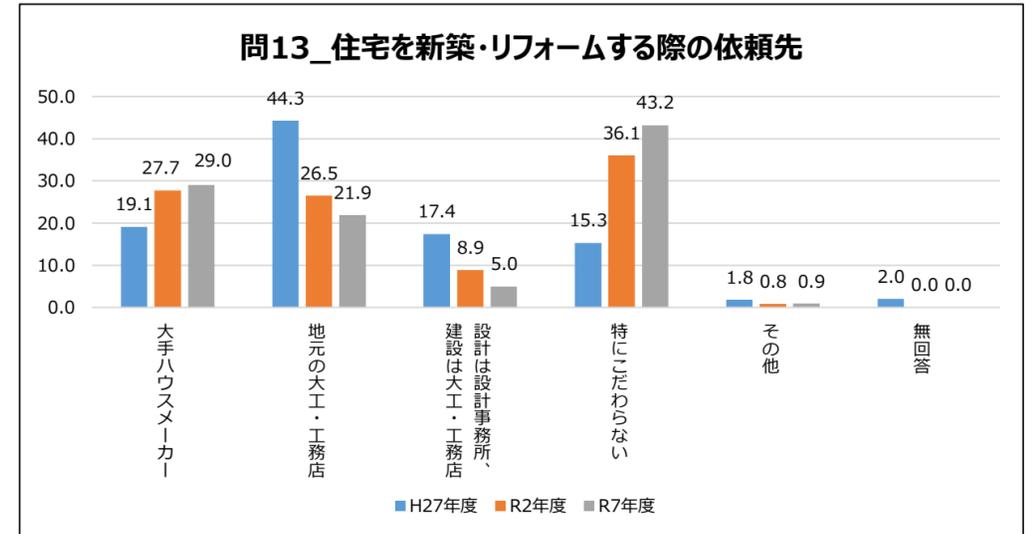
要点：構造への「こだわらない」層が最大化。



問13_ 住宅を新築・リフォームする際の依頼先

	H27年度		R2年度		R7年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全体	986	100.0	1000	100.0	1000	100.0
大手ハウスメーカー	188	19.1	277	27.7	290	29.0
地元の大工・工務店	437	44.3	265	26.5	219	21.9
設計は設計事務所、建設は大工・工務店	172	17.4	89	8.9	50	5.0
特にこだわらない	151	15.3	361	36.1	432	43.2
その他	18	1.8	8	0.8	9	0.9
無回答	20	2.0	-	-	-	-

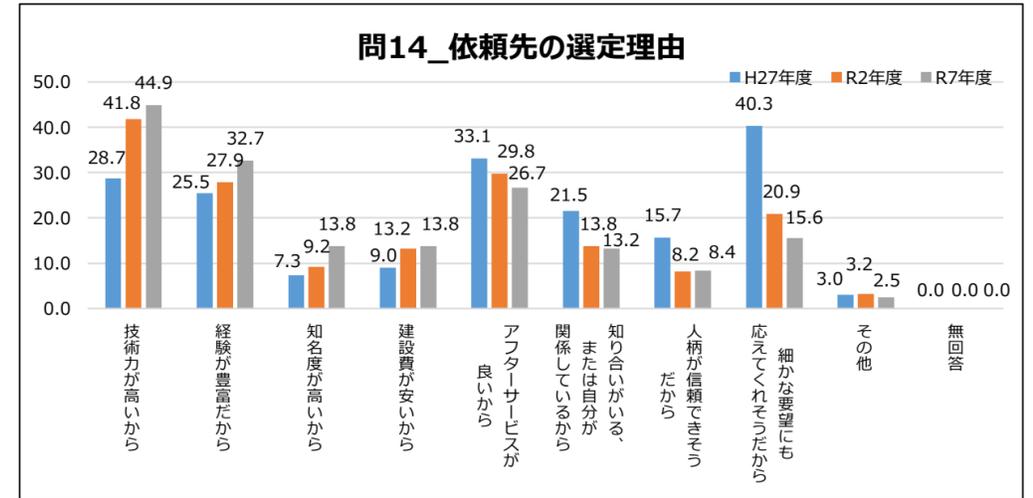
要点：依頼先は「こだわらない」層が増加し、特定の選択肢にこだわりが弱まっている。



問14_ 依頼先選定理由(2つまで選択可)

	H27年度		R2年度		R7年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全体	797	100.0	631	100.0	559	100.0
技術力が高いから	229	28.7	264	41.8	251	44.9
経験が豊富だから	203	25.5	176	27.9	183	32.7
知名度が高いから	58	7.3	58	9.2	77	13.8
建設費が安いから	72	9.0	83	13.2	77	13.8
アフターサービスが良いから	264	33.1	188	29.8	149	26.7
知り合いがいる、または自分が関係しているから	171	21.5	87	13.8	74	13.2
人柄が信頼できそうだから	125	15.7	52	8.2	47	8.4
細かな要望にも応えてくれそうだから	321	40.3	132	20.9	87	15.6
その他	24	3.0	20	3.2	14	2.5
無回答	0	0.0	-	-	-	-

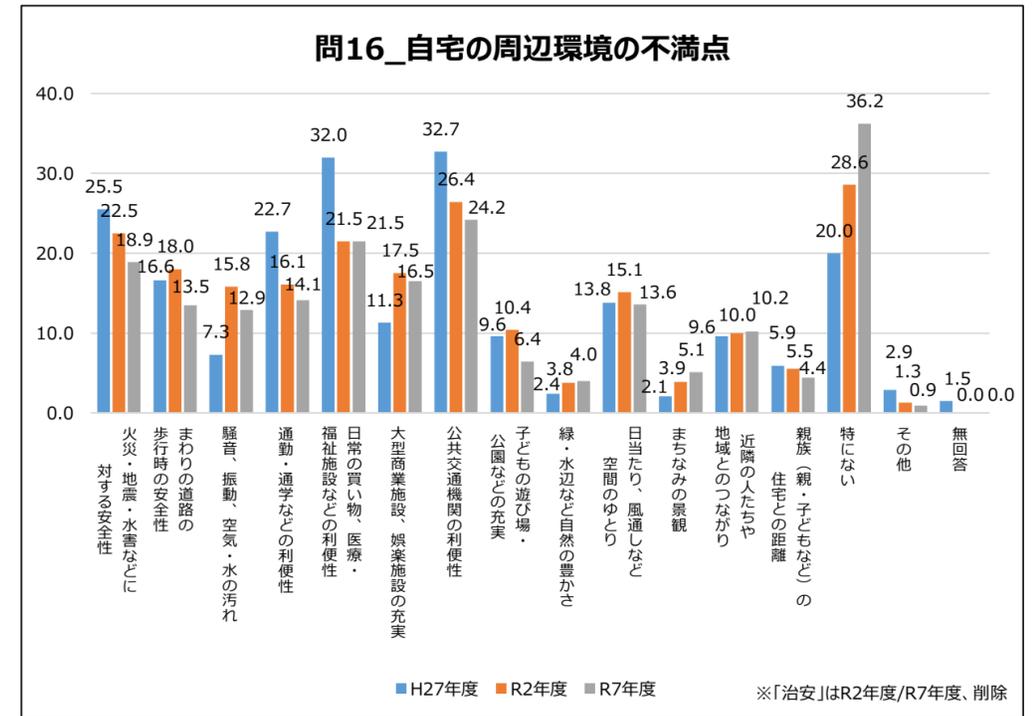
要点：依頼先選定の基準は技術、経験、アフターへ収れん。



問16_ 自宅の周辺環境の不満点(5つまで選択可) ※H27年度は3つまで選択可

	H27年度		R2年度		R7年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全体	986	100.0	1000	100.0	1000	100.0
火災・地震・水害などに対する安全性	251	25.5	225	22.5	189	18.9
まわりの道路の歩行時の安全性	164	16.6	180	18.0	135	13.5
騒音、振動、空気・水の汚れ	72	7.3	158	15.8	129	12.9
通勤・通学などの利便性	224	22.7	161	16.1	141	14.1
日常の買い物、医療・福祉施設などの利便性	316	32.0	215	21.5	215	21.5
大型商業施設、娯楽施設の充実	111	11.3	175	17.5	165	16.5
公共交通機関の利便性	322	32.7	264	26.4	242	24.2
子どもの遊び場・公園などの充実	95	9.6	104	10.4	64	6.4
緑・水辺など自然の豊かさ	24	2.4	38	3.8	40	4.0
日当たり、風通しなど空間のゆとり	136	13.8	151	15.1	136	13.6
まちなみの景観	21	2.1	39	3.9	51	5.1
近隣の人たちや地域とのつながり	95	9.6	100	10.0	102	10.2
親族（親・子どもなど）の住宅との距離	58	5.9	55	5.5	44	4.4
特になし	197	20.0	286	28.6	362	36.2
その他	29	2.9	13	1.3	9	0.9
無回答	15	1.5	-	-	-	-

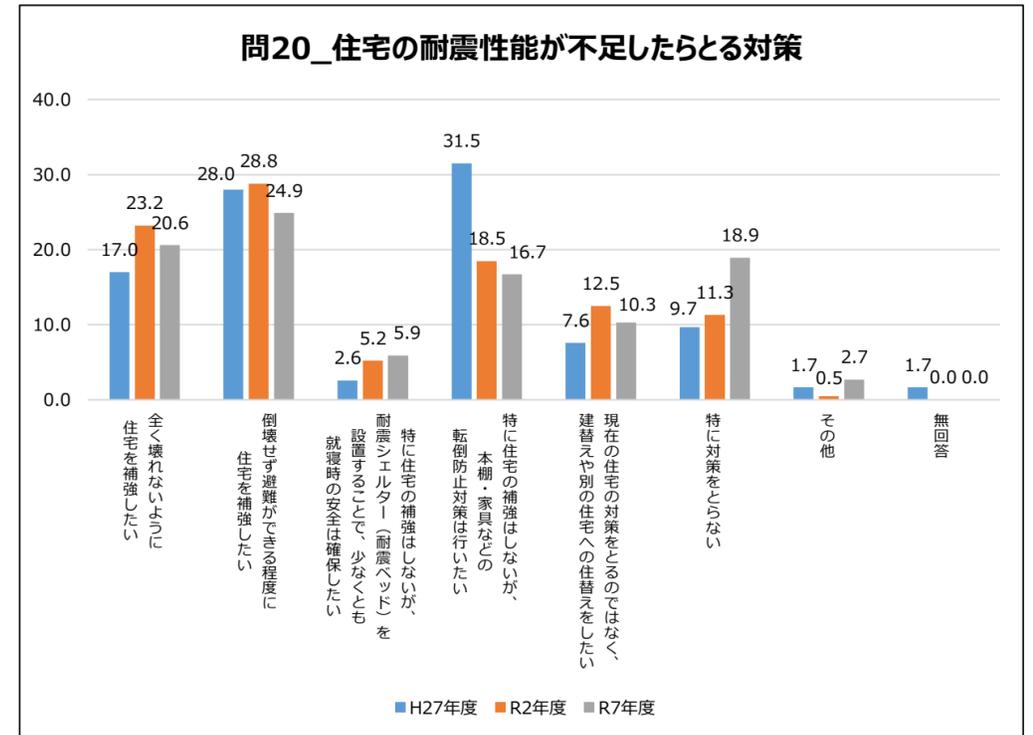
要点：不満なしが増加。ただし重要不満は「交通」と「日常利便性」。



問20_ 仮に住宅の耐震性が不足したら、とる対策

	H27年度		R2年度		R7年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全体	986	100.0	1000	100.0	1000	100.0
全く壊れないように住宅を補強したい	168	17.0	232	23.2	206	20.6
倒壊せず避難ができる程度に住宅を補強したい	276	28.0	288	28.8	249	24.9
特に住宅の補強はしないが、耐震シェルター（耐震ベッド）を設置することで、少なくとも就寝時の安全は確保したい	26	2.6	52	5.2	59	5.9
特に住宅の補強はしないが、本棚などの家具の転倒防止対策は行いたい	311	31.5	185	18.5	167	16.7
現在の住宅の対策をとるのではなく、建て替えや別の住宅への住み替えをしたい	75	7.6	125	12.5	103	10.3
特に対策をとらない	96	9.7	113	11.3	189	18.9
その他	17	1.7	5	0.5	27	2.7
無回答	17	1.7	-	-	-	-

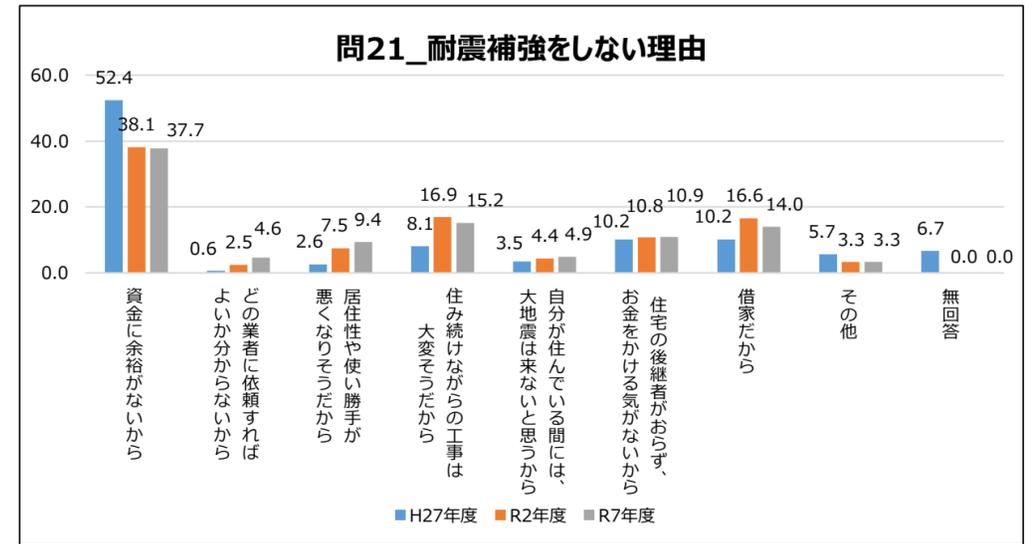
要点：最低限の安全確保志向が継続。ただし「対策しない」がR7で増加。



問21_ 耐震補強をしない理由

	H27年度		R2年度		R7年度	
全体	508	100.0	362	100.0	329	100.0
資金に余裕がないから	266	52.4	138	38.1	124	37.7
どの業者に依頼すればよいか分からないから	3	0.6	9	2.5	15	4.6
居住性や使い勝手が悪くなりそうだから	13	2.6	27	7.5	31	9.4
住み続けながらの工事は大変そうだから	41	8.1	61	16.9	50	15.2
自分が住んでいる間には、大地震は来ないと思うから	18	3.5	16	4.4	16	4.9
住宅の後継者がおらず、お金をかける気がないから	52	10.2	39	10.8	36	10.9
借家だから	52	10.2	60	16.6	46	14.0
その他	29	5.7	12	3.3	11	3.3
無回答	34	6.7	-	-	-	-

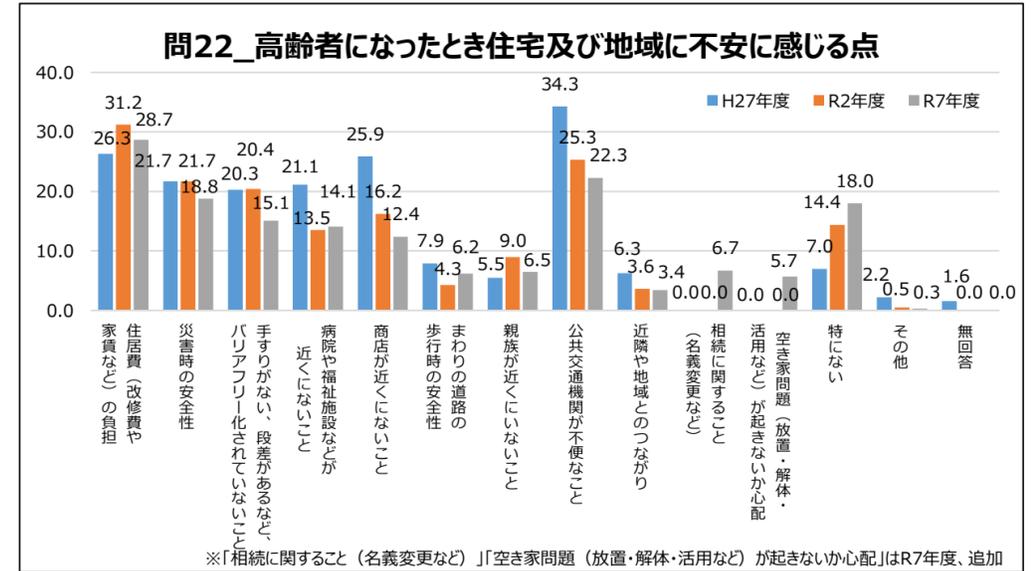
要点：一貫して資金不足が最大の壁。



問22_ 高齢者になったとき、現在住んでいる住宅及びその地域に不安を感じる点(2つまで選択可)

	H27年度		R2年度		R7年度	
全体	986	100.0	1000	100.0	1000	100.0
住居費（改修費や家賃など）の負担	259	26.3	312	31.2	287	28.7
災害時の安全性	214	21.7	217	21.7	188	18.8
手すりがなく、段差があるなど、バリアフリー化されていないこと	200	20.3	204	20.4	151	15.1
病院や福祉施設などが近くにないこと	208	21.1	135	13.5	141	14.1
商店が近くにないこと	255	25.9	162	16.2	124	12.4
まわりの道路の歩行時の安全性	78	7.9	43	4.3	62	6.2
親族が近くにないこと	54	5.5	90	9.0	65	6.5
公共交通機関が不便なこと	338	34.3	253	25.3	223	22.3
近隣や地域とのつながり	62	6.3	36	3.6	34	3.4
相続に関すること（名義変更など）	-	-	-	-	67	6.7
空き家問題（放置・解体・活用など）が起きないか心配	-	-	-	-	57	5.7
特になし	69	7.0	144	14.4	180	18.0
その他	22	2.2	5	0.5	3	0.3
無回答	16	1.6	-	-	-	-

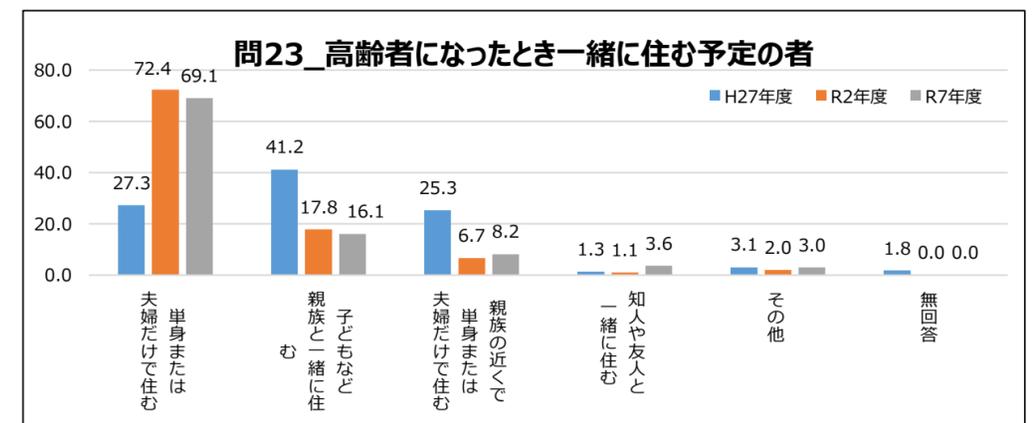
要点：住居費・交通・災害が継続して主要な不安要因。



問23_ 高齢者になったとき、一緒に住む予定の者

	H27年度		R2年度		R7年度	
全体	986	100.0	1000	100.0	1000	100.0
単身または夫婦だけで住む	269	27.3	724	72.4	691	69.1
子どもなど親族と一緒に住む	406	41.2	178	17.8	161	16.1
親族の近くで単身または夫婦だけで住む	249	25.3	67	6.7	82	8.2
知人や友人と一緒に住む	13	1.3	11	1.1	36	3.6
その他	31	3.1	20	2.0	30	3.0
無回答	16	1.8	-	-	-	-

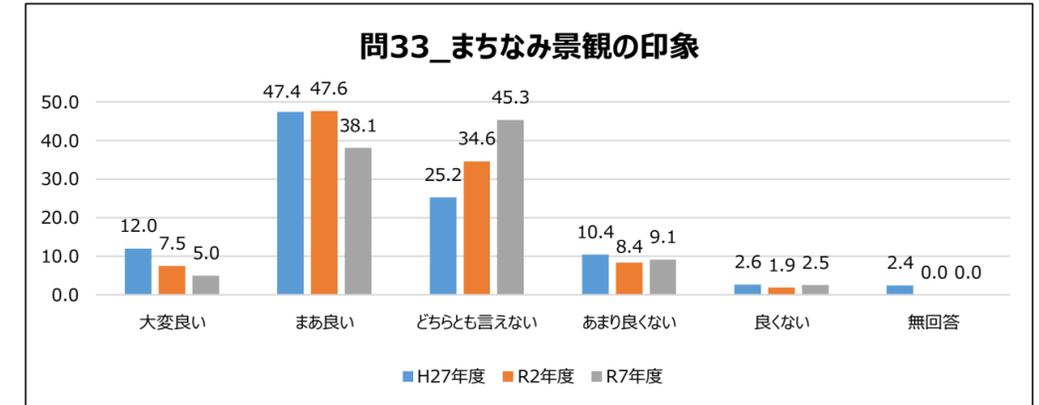
要点：一緒に住む予定の者は「単身又は夫婦のみ」が定着。



問33_ 現在住んでいる地区のまちなみ景観についての印象

	H27年度		R2年度		R7年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全体	986	100.0	1000	100.0	1000	100.0
大変良い	118	12.0	75	7.5	50	5.0
まあ良い	467	47.4	476	47.6	381	38.1
どちらとも言えない	248	25.2	346	34.6	453	45.3
あまり良くない	103	10.4	84	8.4	91	9.1
良くない	26	2.6	19	1.9	25	2.5
無回答	24	2.4	-	-	-	-

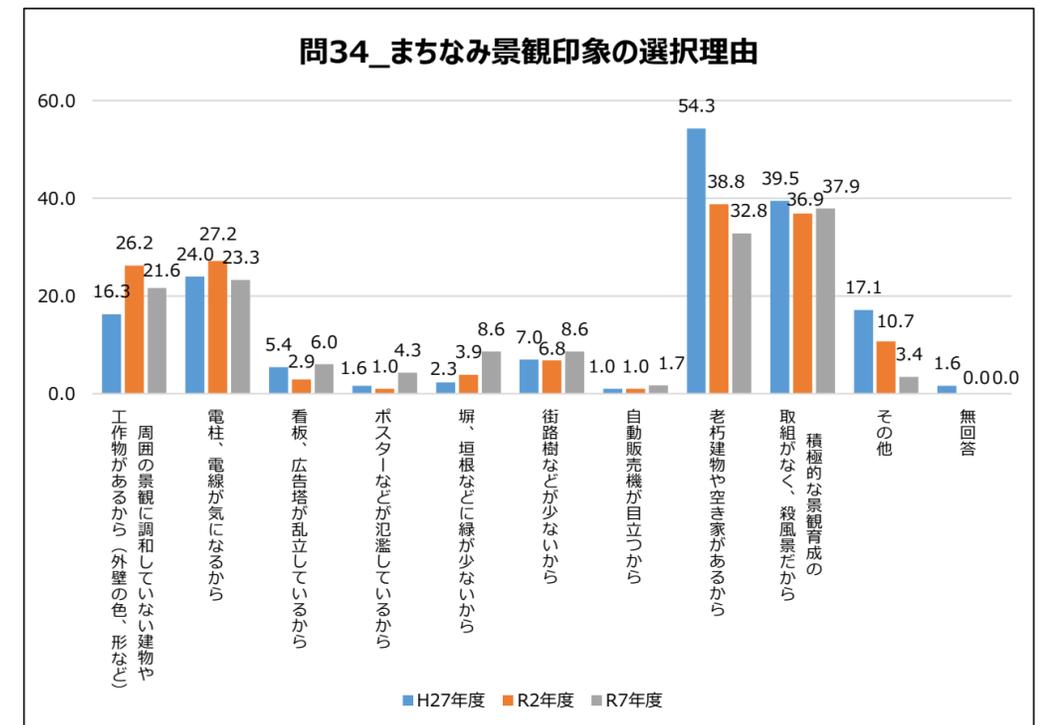
要点：評価は「可もなく不可もなく」傾向へ。



問34_ 景観印象の理由(2つまで選択可)

	H27年度		R2年度		R7年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全体	129	100.0	103	100.0	116	100.0
周囲の景観に調和していない建物や工作物があるから(外壁の色、形など)	21	16.3	27	26.2	25	21.6
電柱、電線が気になるから	31	24.0	28	27.2	27	23.3
看板、広告塔が乱立しているから	7	5.4	3	2.9	7	6.0
ポスターなどが氾濫しているから	2	1.6	1	1.0	5	4.3
塀、垣根などに緑が少ないから	3	2.3	4	3.9	10	8.6
街路樹などが少ないから	9	7.0	7	6.8	10	8.6
自動販売機が目立つから	2	1.0	1	1.0	2	1.7
老朽建物や空き家があるから	70	54.3	40	38.8	38	32.8
積極的な景観育成の取組がなく、殺風景だから	51	39.5	38	36.9	44	37.9
その他	22	17.1	11	10.7	4	3.4
無回答	2	1.6	-	-	-	-

要点：「老朽化問題」から「景観施策不足」への移行が特徴。



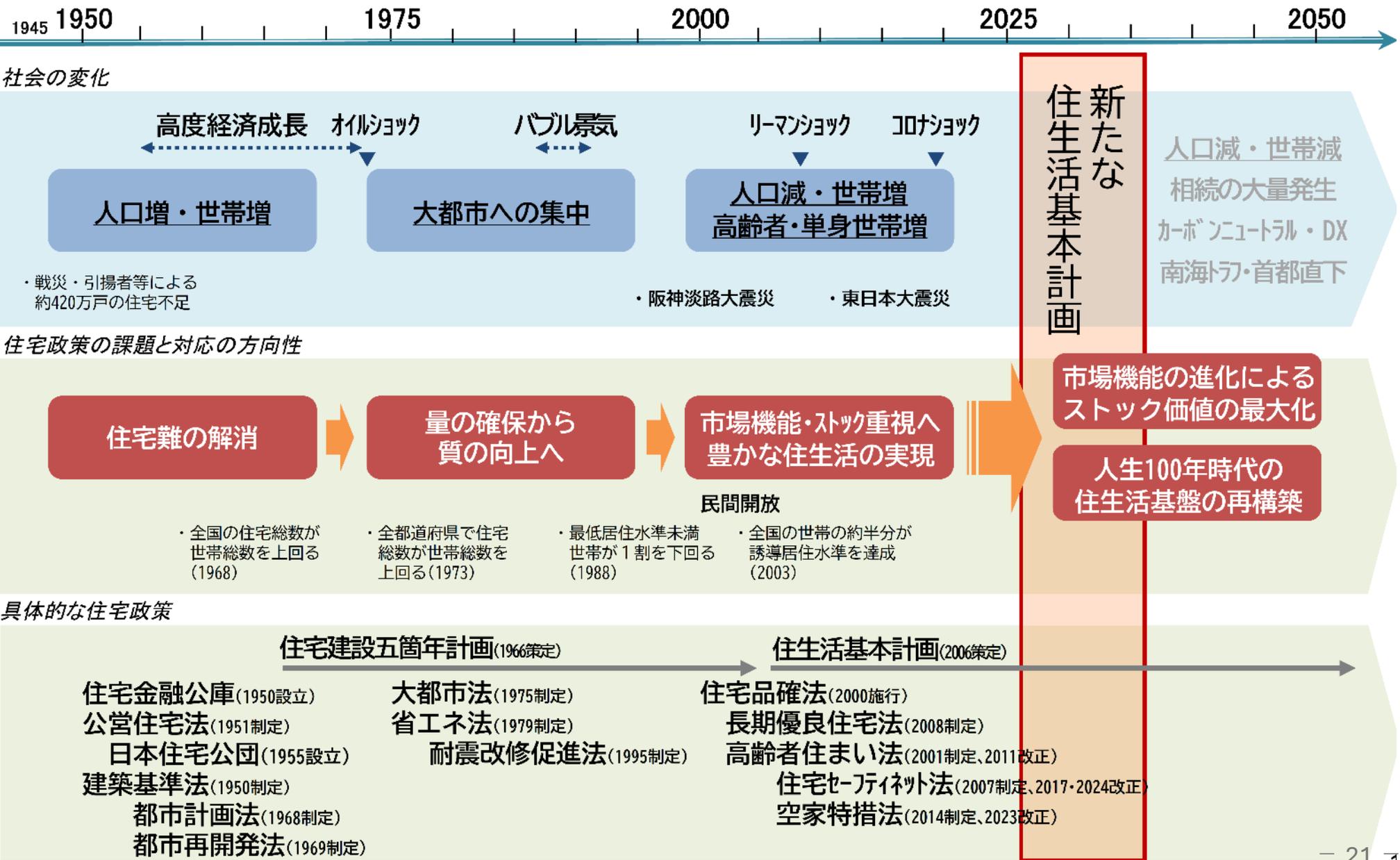
6 長野県住生活基本計画の変遷



住生活基本計画（全国計画）の見直しスケジュール

- 令和6年**
- 10月31日 第58回住宅宅地分科会
（住生活基本計画の見直し等について、マンション施策について）
- 12月16日 第59回住宅宅地分科会
（計画改定の主な論点、住生活基本計画に基づく主な施策の取組状況等）
- 令和7年**
- 1月28日 第60回住宅宅地分科会
（2050年に向けた住宅施策の方向性について（総括的プレゼンテーション））
- 2月17日 第61回住宅宅地分科会
（人生100年時代において住生活を支える仕組みについて（住宅セーフティネット
・子育て世帯、若者世帯・住生活を支える仕組み）、マンション施策とりまとめ報告）
- 3月26日 第62回住宅宅地分科会
（ストック社会における住宅・住環境・市場のあり方について①）
- 4月17日 第63回住宅宅地分科会
（ストック社会における住宅・住環境・市場のあり方について②）
- 5月29日 第64回住宅宅地分科会
（これまでの議論を踏まえて、2050年にむけて必要となる住宅施策の方向性について）
- 7月30日 第65回住宅宅地分科会
・中間とりまとめ（素案）の提示
- 9月19日 第66回住宅宅地分科会
・中間とりまとめ（案）の提示
- 11月4日 **中間とりまとめ公表**
- 11月26日 **第67回住宅宅地分科会**
・住生活基本計画（全国計画）（素案）の提示
- 令和8年**
- 2月16日 **第68回住宅宅地分科会**
・住生活基本計画（全国計画）（案）の提示
- 3月 **閣議決定**

住宅政策の変遷と2050年に向けた方向性



(1) 住宅政策の方向性

<これから2050年までに想定される変化等>

住まうヒト	<ul style="list-style-type: none"> 生産年齢人口の減少の加速化、子育て世帯の減少、高齢単身世帯の増加等 人口・世帯構成の大きな変化による、住宅市場の前提である住生活ニーズ等の変容
住まうモノ	<ul style="list-style-type: none"> 2000年の住宅品質確保法に始まる新築住宅の質誘導の枠組みの概成 比較的利便性の高い既成住宅地の住宅の大量相続等、既存住宅の本格的な有効活用の必要性
住まいを支えるプレイヤー	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる関係者で2050年に向けた住宅政策の方向性を共有し、相互に連携して取り組む必要性 住宅市場の変化を踏まえた、国による市場の環境整備・誘導・補完の再構築等の必要性

<目指す社会>

これまで官民投資により蓄積してきたインフラ・居住環境を備えた住宅・住宅地が、市場を通じて最大限に活用され、人生100年時代における時々のライフスタイルに適した住宅を過度な負担なく確保できる持続可能な社会

市場機能の進化を通じた住宅ストック価値の最大化

人生100年時代の住生活を支える基盤の再構築

国民それぞれの暮らし・住まいのWell-beingを満たす政策を本格的に推進

(2) 主な取組方策

① ニーズに応じた住宅を適時適切に確保できる循環型市場の形成

- ▶ 住宅の継承を支える維持管理・流通に係る評価・金融制度の整備
- ▶ ニーズに応じた賃貸住宅を選択できる市場環境整備の更なる推進
- ▶ バランスのよい除却、新築、建替え等による、継承されるストックの形成

② インフラ・居住環境の整った既存の住宅・住宅地の市場を通じた本格的な有効活用

- ▶ 利便性の高い既成住宅地の相続住宅等の有効活用に向けた枠組み整備
- ▶ 住宅ストックの円滑な継承・活用を促す規律とインセンティブの確立
- ▶ 公営住宅等の公的賃貸住宅、住宅団地のストック価値を活かした柔軟活用

③ 分野横断的な連携による「気づき」と「つなぎ」のある居住支援の充実

- ▶ 居住支援協議会等を通じた居住支援体制の整備、コミュニティを育むまちづくり
- ▶ 公営住宅等の公的賃貸住宅及び民間賃貸住宅による住宅セーフティネット機能強化
- ▶ 住宅・福祉分野の連携による「気づき」と「つなぎ」のある居住支援の確保

④ 既存住宅を最大限に活用する持続的な住宅市場を支えるあらゆる主体の連携・協働の推進

- ▶ 限りある専門技術者・技能者による質の高い住宅の新築及びリフォーム、幅広い担い手による住まいの適切な維持管理を支える体制の構築
- ▶ 居住者に対する情報提供や相談体制の整備、消費者保護の確保等

視点	目標	2050年に目指す住生活の姿	当面10年間で取り組む施策の方向性
住みこみ	①人生100年時代を見据え、高齢者が孤立せず、希望する住生活を実現できる環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 高齢期に適した円滑な住替え・リフォームの促進 ▶ 高齢期に孤立せず安心できる住環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 高齢期の返済負担軽減が可能なローンの整備 ▶ 居住サポート住宅・セーフティ住宅等の普及拡大
	②若年世帯や子育て世帯が希望する住まいを確保できる社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 若年・子育て世帯向けの選択肢の充実 ▶ 子育てしやすい居住環境・サービスの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ こどもつながるURの実践と他団地等への展開 ▶ 既成住宅地の相続住宅の市場を通じた流通
	③住宅確保要配慮者が安心して暮らせる居住環境・居住支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「気付き」と「つながり」の居住支援の定着 ▶ 公的・民間賃貸住宅双方によるセーフティ機能充実 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 総合的・包括的な居住支援体制の整備 ▶ 居住サポート住宅・セーフティ住宅等の普及拡大(再掲)
	④過度な負担なく希望する住生活を実現できる環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 安心して住宅を取得できる環境の整備 ▶ 質の高い住宅の多世代間での継承 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 既成住宅地の相続住宅の市場を通じた流通(再掲) ▶ 頭金積立支援、住宅ローンの充実
住みこみ	⑤多世代にわたり活用される住宅ストックの形成	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 更新・改修による住宅ストックの質的向上 ▶ 世帯人員減少に対応した住宅ストックの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 質向上加速化の支援(耐震、省エネ、バリアフリー) ▶ 将来世代に継承する住宅ストックの供給・流通の推進
	⑥住宅ストックの性能や利用価値が市場で適正に評価され、循環するシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 所有者による維持管理と次世代継承の定着 ▶ 維持管理・利用価値を評価する市場へ転換 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 維持管理・流通の促進のための市場環境整備 ▶ 性能・利用価値の査定評価法の普及
	⑦住宅の誕生から終末まで切れ目のない適切な管理・再生・活用・除却の一体的推進	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 放置空き家等にしない適正管理の定着 ▶ マンションの適正管理、再生円滑化 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 空き家化する前の対策・活用・除却等の支援の充実 ▶ マンションの計画的な維持管理の推進
	⑧持続可能で多様なライフスタイルに対応可能な住宅地の形成	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 市場機能を活用した持続可能な住宅地の形成 ▶ 多様なライフスタイル・交流を支える住環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 住宅・住宅地の継承に向けた規律と誘導の確立 ▶ 移住・二地域居住等に資する環境整備の推進
	⑨頻発・激甚化する災害に対応した安全な住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 安全な住宅への改修・住替えの推進 ▶ 災害時の住まい確保・生活再建の迅速化 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 耐震化・密集市街地の整備改善の促進 ▶ 災害時に備えた関係機関の体制整備の推進
住みこみを支える	⑩担い手の確保・育成や海外展開等を通じた住生活産業の発展	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 安定供給の確保、所有者支援体制の充実 ▶ 2050カーボンニュートラルに向けたライフサイクルカーボン削減 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ビジョンの策定、所有者支援・DX・和の住まいの推進 ▶ ライフサイクルカーボンを意識した住生活産業の推進
	⑪国と地方における住宅行政の役割の明確化と推進体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 国による市場の環境整備・誘導・補完の継続 ▶ 地方の分野横断的な住宅行政の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 住生活基本計画を通じた政策の推進・検証 ▶ 地方住宅行政の役割や連携・協働のあり方の検討

第3 大都市圏における住宅の供給等及び住宅地の供給の促進

- 長年にわたり蓄積されてきたインフラ・居住環境の整った既成住宅地の空き家をはじめとする既存の住宅・住宅地が市場を通じて継承されるよう、必要に応じて更新や改修等を行うことにより、住宅取得希望者の居住ニーズに対応した住宅・住宅地への再生を促進することが必要である。
- 郊外型の新市街地開発は、既に着手している事業で、自然環境の保全に配慮され、将来にわたって地域の資産となり、生活・交通利便性を有する豊かな居住環境を備えた優良な市街地の形成が見込まれるものに厳に限定する。

第4 施策の総合的かつ計画的な推進

(1) 住生活に関わるあらゆる主体・施策分野の連携

- ▶ まちづくり・交通・医療・福祉等の関連施策分野との連携を一層強化
- ▶ ジェンダーの主流化、増加する外国人との秩序ある共生等に留意

(2) ストック社会における建築行政との連携

- ▶ 住宅ストックの安全性確保と活用促進の両立が図られる制度的枠組みも含めた環境整備が不可欠
- ▶ 産学官の連携を通じて、教育の視点も踏まえた担い手の確保・育成等や生産性向上に資する技術的観点からの議論を推進

(3) 住宅金融市場の整備と税財政上の措置

- ▶ 住宅金融証券化市場の整備育成、リバースモーゲージや残価設定型の住宅ローン等の普及、金利リスク等住宅ローンに関する国民理解を深める取組、適切な維持管理による住宅循環システムの構築や良質な住宅への更新等に対応した住宅ローンの供給の支援等の役割をJHFに期待

(4) デジタル技術・データの活用

- ▶ AIを含むデジタル技術の活用により、住生活産業の生産性向上や住宅行政の業務効率化を図る
- ▶ デジタル技術により生み出されるデータ等を活用して、品質・サービスの向上を図る

(5) 全国計画、都道府県計画、市区町村における基本的な計画等の策定

- ▶ 都道府県は、都道府県計画において、広域的観点から施策の方向性、単独では十分な施策を実施することが困難な市区町村との連携のあり方、市区町村間の施策の連携のあり方を示すことを期待
- ▶ 市区町村は、地域特性を踏まえ、施策の方向性を示す基本的な計画を策定し、関連分野と連携して施策を実施することが望ましい
- ▶ 当該計画は、地域特性に応じた主要施策の方針の明示が肝心であり、都道府県計画や他計画と連携して示すことで、広域なエリア内や地方行政全体の中での位置づけを明確にし、連携の円滑化を図ることを期待

(6) 住生活リテラシーの向上

- ▶ 国民それぞれの状況に適した情報の容易な入手、専門家等からの適切な助言を可能とするよう、デジタル技術を活用した情報提供・相談体制の整備を官民連携して進めることが必須
- ▶ 畳・襖・瓦・土壁・漆喰の「和の住まい」など失われつつある住文化の良さや、技能継承の担い手育成の必要性を再認識する機会を創出する必要

(7) 政策評価の実施と計画の見直し

- ▶ おおむね5年後に計画を見直し、所要の変更を行う。

別紙1 住宅性能水準

- 今後の住宅ストックの充実に当たって供給・流通を促していく規模は、これまでの単身世帯の最低居住面積水準が25㎡以上とされてきたことにも留意しつつ、2050年に向けて増加が見込まれる単身世帯が都市居住に当たってゆとりのある住生活を営むことができる規模及び、2人世帯、3人世帯若しくは夫婦と2人の未就学児等からなる世帯が生活を営むことができる規模を考慮して、40㎡程度を上回る住宅とする。

別紙2 居住環境水準

別紙3 公営住宅の供給の目標量の設定の考え方

住まうヒト に関する指標

人生100年時代における時々のライフスタイルに適した住宅を過度な負担なく確保できるよう、住生活を支える基盤を再構築するため、以下の指標を注視しつつ、目標1から目標4に掲げる施策等を推進する。

《住宅の資産価値の評価に関連する指標》

○住宅の資産価値を評価するローンを取り扱う民間金融機関の割合【27%(令和5)→35%(令和17)】

(○成果指標、●重要観測指標)

《各世帯のニーズへの対応に関連する指標》

○高齢者向け住宅の供給数【108万戸(令和5)→150万戸(令和17)】

※サービス付き高齢者向け住宅、シルバーハウジング、居住サポート住宅、有料老人ホーム等

○子育てしやすい住環境の整備や、子育て世帯等の優先入居等の推進を行うUR団地の団地数及び住戸数

【0団地・0戸(令和7)→100団地・10万戸(令和17)】

○公的賃貸住宅団地(100戸以上)における地域拠点施設併設率【35%(令和6)→50%(令和17)】

※高齢者世帯、障害者世帯、子育て世帯等の支援に資する施設。

○居住支援協議会を設立した市区町村の人口カバー率【約3割(令和6)→9割(令和17)】

住まいを支える プレイヤー に関する指標

国、地方公共団体、関係機関、住宅・住生活関連事業者、NPOや地域団体等、そして住生活を営む居住者自身も含めたあらゆる関係者で相互に連携して住宅市場を維持し続ける社会であるため、以下の指標を注視しつつ、目標10及び目標11に掲げる施策等を推進する。

《担い手に関連する指標》

○大工就業者のうち女性の就業者数【4,540人(令和2)→継続的に増加】

●大工就業者数【298千人(令和2)】

(○成果指標、●重要観測指標)

《地方公共団体に関連する指標》

○住宅政策の方針を明示している市区町村の人口カバー率【68.4%(令和6)→8割(令和17)】

《官民連携に関連する指標》

●地方公共団体等と連携している居住支援法人の割合【32%(令和5)】

●空家等管理活用支援法人の指定市区町村数と指定数【65市区町村98団体(令和7)】

住まうモノ
に関する指標

これまで官民投資により蓄積してきたインフラ・居住環境を備えた住宅・住宅地が市場を通じて最大限に活用される持続可能な社会に向けて、市場機能の進化によるストック価値の最大化を実現するため、以下の指標を注視しつつ、目標5から目標9に掲げる施策等を推進する。

《住宅性能に関連する指標》

(○成果指標、●重要観測指標)

- 耐震性が不十分な住宅ストックの比率【10%(令和5)→おおむね解消(令和17)】
- 住宅ストックの平均の省エネ性能(BEI)【1.3(令和5)→1.0[住宅ストック平均で省エネ基準を達成](令和17)】
- 高齢者の居住する住宅のうち、一定のバリアフリー性能及び断熱性能を有する住宅の割合【19%(令和5)→30%(令和17)】
- 住宅ストックに占める認定長期優良住宅及び建設住宅性能評価取得住宅の割合【7%(令和6)→13%(令和17)】
- 民間賃貸住宅のうち、一定の断熱性能を有し遮音対策が講じられた住宅の割合【9.8%(令和5)→20%(令和17)】

《維持管理に関連する指標》

- マンション管理計画認定の取得割合【約3%(令和6)→20%(令和13)】
- 戸建住宅を定期的に点検する所有者の割合【22%(令和5)】

《既存住宅流通に関連する指標》

- 既存住宅取引及びリフォームの市場規模【16.9兆円(令和5)→19.7兆円(令和17)】
- 居住誘導区域内の人口割合が維持向上した地方公共団体の割合【72.2%(令和6)→2/3以上を維持】
- 住宅需要の高い地域における空家等活用促進区域の指定数【4区域(令和6)→100区域(令和17)】
- 都市部における使用目的のない空き家数【約95万戸(令和5)】
- マンションの再生等の件数【472件(令和6)→1,000件(令和12)】
- 持家・借家それぞれの面積別の住宅ストック数
 [[40㎡台]持家68万戸・借家312万戸、[50㎡台]持家135万戸・借家295万戸(令和5)】
- 腐朽・破損がある使用目的のない空き家数【90万戸(令和5)→100万戸程度に抑える】

《災害被害の軽減に関連する指標》

- 著しく危険な密集市街地の面積の解消率【71%(令和5)→100%(令和12)】
- 浸水想定区域を有する市区町村において、住まいの浸水対策にハード・ソフト合わせて取り組む市区町村の割合【58%(令和6)→100%(令和17)】